



2014 年度

(平成 26 年度)

年 報

公益財団法人 近江兄弟社

ヴォーリス記念病院
訪問看護ステーション ヴォーリス
ホームヘルパーステーション ヴォーリス
ヴォーリス居宅介護支援事業所

ご挨拶

公益財団法人 近江兄弟社 理事長
ヴォーリズ記念病院 管理者 三ッ浪健一

2015年6月18日付けで理事長と病院管理者に就任しました。2014年度年報の発行に当たり、挨拶申し上げます。

年々増加の一途をたどってきた国民医療費は、2013年度に40兆610億円と、初めて40兆円を超えました。高齢化や医療技術の高度化を背景にするものですが、団塊の世代がすべて75歳以上になる2025年には患者の負担を除いても54兆円になると推計されており、無駄を省いて医療費の伸びを抑制する重要性が指摘されています。

滋賀県の地域医療構想では、2025年の必要病床数は全体で11,319床（2014年の現況より1,062床減少）、高度急性期1,277床（506床減）、急性期3,871床（2,499床減）、回復期3,579床（2,413床増加）、慢性期2,592床（470床減）と推計されており、東近江保健医療圏に限ると、全体で1,832床（2014年の現況より404床減少）、高度急性期174床（1床減）、急性期485床（511床減）、回復期551床（306床増加）、慢性期622床（198床減）が必要病床数と推計されています。

2014年の診療報酬改定では、機能強化型在宅療養支援診療所の基準厳格化、実績のある在宅療養支援診療所・在宅療養支援病院の評価、機能強化型訪問看護ステーションの創設、過去最大級の7対1病床絞り込み、在宅療養後方支援病院と地域包括ケア病棟・病床の創設、慢性期入院の在宅復帰率に着目した加算の新設など、医療費抑制へ向けた誘導が図られました。

このような情勢の中で、2014年度に当院がどのような活動を行い、今後どのような病院にしていこうとしたのかについてまとめておくことは、今後の当院の発展のために大変有意義なことです。本年報をしっかりと分析していただいて、今後の発展へ向けた多くの提言がなされることを大いに期待しております。

ご 挨拶

公益財団法人 近江兄弟社
ヴォーリス記念病院 院長 周防正史

今年には地域医療構想の検討会が始まりました。まさに日本の人口減少を予想し病院のベッドを削減する時代に入りました。しかし10年後20年後に日本の医療がどのようになっているか誰が明確に想定できるでしょうか。混とんとした中での医療改革に不安を覚えずにはられません。

確かな事は、高齢者が確実に増えること、そして寝たきりの高齢者や認知症でお困りの方が増えます。そのような方の多くは、今後在宅医療が中心になっていくとされています。核家族の増加、独居老人の増加、介護に伴う離職など在宅医療を支える資源はますます貧弱になっていきます。

昨年は在宅療養支援病院を取得しました。私どもの病院に何ができるのかを常に考えながら、在宅医療を前線で支えていただいている開業医の先生方、訪問看護師やヘルパーさん、ケアマネージャーの方々を支えていく後方支援病院として、積極的に活動していく所存です。

2014年の活動報告がここにできました。御高覧いただければ幸いです。

末筆ながら、皆さまのますますのご健勝、ご発展を祈念申し上げ、ご挨拶といたします。

基本理念

- I キリスト教の「隣人愛」と「奉仕」の業を実践する。
(病む人、障害を持つ人の満足する医療を実践する。)
- II 「医療は、サービス業である。」
(“患者サービス第一”を原則とし、親切で親身な医療サービスを実践する。)
- III 「心と体に対し、調和の取れた医療・看護を目指す。」
(病む人を診る。病む人に優しい医療を実践する。)

基本方針

- 1. ヴォーリス記念病院「患者憲章」及び「個人情報保護規程」を遵守し、患者さんの権利、意思を尊重し、常に診療を拒まず、迅速に診断・治療を行う病院となる。
- 2. 一般急性期、高齢慢性期から終末期まで幅広く対応できる体制を整え、患者さんが「生を全うする」ことを支える医療・ケアを実践する病院となる。
- 3. 地域住民の疾病予防・健康的生活のため、地域ニーズを反映した保健・医療・介護活動の拠点として開かれた病院となる。
- 4. 地域の保健医療機関及び介護施設との連携を深め、在宅医療、在宅介護を推進し、患者さんの立場に立った医療・介護を提供する病院となる。
- 5. ホスピス病棟と在宅介護サービス部門との協働により、在宅の看取りを可能にする病院となる。
- 6. 職員を大切にし、お互いが希望と意欲を持って、働き甲斐のある病院となる。

私たちのちかい

- 1. 私たちは、患者さんのために最善をつくします。
- 2. 私たちは、患者さんの誰にも同じようにつかえます。
- 3. 私たちは、患者さんの権利と意思を尊重します。
- 4. 私たちは、患者さんのプライバシーをまもります。
- 5. 私たちは、知識・技術の向上につとめます。

目 次

理事長の挨拶

病院長の挨拶

病院基本理念 ・ 基本方針 ・ 私たちのちかい

1. 概要	ページ
病院組織図	1
病院事業報告	2-5
2. 2014年度（平成26年）主な行事・出来事	6-8
3. 各部報告	
診 療 部 診療部 総括	9-13
医 局	14-16
診療支援室	17
診療技術部 診療技術部 総括	18
薬 局	19-20
診療放射線科	21-22
臨床検査科	23-26
栄 養 科	27-28
集団栄養指導	29
リハビリテーション科	30-31
メディカルフィットネスセンター ウォーリス	32-33
ME サービス室	34-37

看護部	看護部 総括	38-39
	1 病棟	40-41
	2 病棟	42-44
	3 病棟	45-47
	緩和ケア病棟	48-49
	外来部門	50
事務部	事務部 総括	51
	医事課	52-54
	管理課	55-57
	地域連携課	58-60
	企画渉外課	61-63
	システム室	64-65
在宅部	在宅部 総括	66
	訪問看護ステーション ウォーリス	67-68
	ホームヘルプステーション ウォーリス	69-70
	ウォーリス 居宅介護支援事業所	71
	介護予防拠点事業活動報告	72-73
診療情報管理室	診療情報管理室 総括	74-82
礼拝堂	礼拝堂 総括	83

4. 委員会報告

業務連絡・業務改善委員会	84
給与・規約プロジェクト委員会	85
自衛消防隊	86
安全衛生委員会	87
栄養管理委員会	88
広報委員会	89
接遇委員会	90
臨床検査適正化委員会	91
医療安全管理委員会	92
医療安全管理 リスクマネジメント委員会	93
教育委員会	94
全人的ケア推進委員会	95-96
褥瘡対策委員会	97
ボランティア委員会	98
院内感染防止対策委員会	99
診療情報管理委員会	100
病院機能評価委員会	101
個人情報保護対策委員会	102
クリニカルパス委員会	103
ワークライフバランス委員会	104
IT情報管理委員会	105

概要

公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリズ記念病院
平成26年度事業報告

26年度のトピックスは、在宅療養支援病院の取得と地域包括ケア病床の開設である。

4月に東館の開設とともに、3階のリハビリセンター・1階の在宅サービス部門・託児所が予定通りのスタートを切ることができた。2階の1病棟の再編については、患者さんを受け入れたままの運用の中で、6人部屋・ナースステーション・観察室等の改築を2期に分けて行ったため、8月から本稼働となった。改修工事における騒音はもちろん、病室の移動についても寛大な理解と協力を得ての再編であったと、患者・家族・職員等に感謝したい。地域包括ケア病床3床は、平成27年2月より5床に増床、地域包括ケア病棟医療管理料1にアップした内容で運用をしている。

在宅療養支援病院の役割を果たすために、往診業務を拡大することや地域の開業医の先生方との連携を強化し、不在時のサポート、懇談会の開催、安心カードの配布等一定の業績を果たすことができた。

びわこメディカルネット・あさがおネット・東近江脳卒中パスの運用も連携には欠かせないツールである。

がん患者リハビリテーション料・病棟薬剤業務実施加算等を取得し、特色を活かしたチーム医療を展開している。

就業環境面においては、ワークライフバランスプロジェクト2年目を迎え、アンケートを基に課題を抽出し、賃金テーブルの改定・人事制度の見直しなどの改善をおこなった。健康管理制度の充実にも配慮している。

経営状況として、

前年対比では、医業収入は、+32,389千円(+1.7%)、医業費用は、+59,140千円(+2.9%)、医業収支差は、▲26,751千円、医業外収支差は、+10,865千円となった。結果、増収減益、経常収支差額は、▲89,892千円となり、単年度127,451千円の赤字決算(診療報酬自主返還分69,295千円を含む)となった。

分析として、下記に述べる。

- ①入院は、年間延べ患者数54,512人(前年対比+299人)、一日平均患者数は地域包括ケア病床を含んだ一般病棟50床で40.0人(稼働率82.0%)、療養病棟60床で57.8人(96.4%)、回復期リハ42床で39.3人(94.1%)、緩和ケア病棟16床で12.5人(78.4%)、患者一人一日平均収入は、1病棟28,456円(予算28,500円)、回復期リハ35,738円(予算30,450円)、療養病棟16,147円(予算16,500円)、緩和ケア病棟47,984円(予算45,000円)と単価はほぼ予算をクリアしているが、稼働率は前半、1病棟が工事の影響を受けて75%台で推移したのとホスピスが伸び悩んだこともあり、予算に対し▲34,155千円(▲2.1%)、前年対比+52,490千円(+3.5%)であった。

近江八幡総合医療センターを中心とする患者紹介は、特に回復期リハに好影響を及ぼし、入退院のバランスが稼働率・単価安定に繋がっている。亜急性期病床は、9月末で廃止となり、10月より地域包括ケア病床への申請が認可され、3床から5床に増床と同時に入院料1の取得ができたことにより、2月以降平均単価は3万円台となっている。

- ② 外来は、年間累計患者数 30,377 人（前年対比▲2,180 人）、一日平均患者数 103.3 人（前年対比▲7.4 人）、外来収入は 289,448 千円（前年対比▲21,422 千円）となった。

減収の要因として、常勤消化器内科医の休職や常勤内分泌医の欠員が、大きく影響を受けている。病診連携では、開業医紹介数が前年度対比 2% 増となり、特に整形外科検査目的の紹介数が 36.5% を占めている。今年度初めて総合診療科を標榜し、疾患を総合的に診る診療科としてスタートした。在宅療養支援病院として積極的に訪問診療も進め件数も徐々に増えている。傍ら、専門外来非常勤医師の集客性が期待できない状況が続いており、下記に示す人件比率にも影響度が高い。

- ③ 健診では、54,816 千円（前年対比+1,496 千円）の実績となった。但し、職員健診 4,651 千円分は、福利厚生費として戻している。

- ④ リハビリテーション科の実績は、290,245 千円であった（目標 288,890 千円）。

前年対比+19,918 千円、予算対比+1,355 千円とともに増収となった。

回復期リハ・地域包括ケア病床とも年間通じて単位数をクリアできた。

メディカルフィットネスセンターは、(株)平和堂の閉鎖に伴い、11月より老健センター内(前理学療法スペース)に移転し運営している。継続会員の減少・介護予防通所介護の対象者も一時期減少したが、年度末に 20 名近くまで回復している。

一般会員の新規開拓が課題である。

- ⑤ ホスピスでは、医師 1 名が 12 月末で退職となったが、後任の医師が 11 月に入職され、切れ間無く引き継ぎができた。26 年 4 月より、週 1 回近江八幡医療センターへ訪問し、緩和ケア医診療を開始した。稼働率は前年に比べて 3.1% 増となった。

- ⑥ 人件費は、全体で 1,441,966 千円（前年対比▲4,224 千円・▲0.3%）となったが、依然 収入に対する人件費率は 69.6% と高止まりしている。賞与、退職金支払いは前年の範囲内に収まっているが、非常勤医師給与が 120,965 千円（前年対比+32,368 千円・+36.5%）と突出しており、外来診療の効率性・費用対効果の検証も喫緊の課題である。

経費関係では、平成 26 年 4 月より稼働開始した新棟『東館』、及び 6 月下旬から 8

月上旬にかけて実施した本館2階『1病棟改修工事』による所が大きく影響した。減価償却費156,293千円（前年対比+59,249千円・+61.1%）と、日頃の業務運営に不可欠な光熱水費が37,444千円（前年対比+4,966千円・+15.3%）と大きく膨らんだ。

また、物品機材購入の消耗品費及び消耗器具備品費が、前年度27,091千円、今年度25,881千円と連続して高いのは、上述の新築・改修及び消費税増税によるもので、一過性と認識している。

- ⑦ 人財の充足においては、消化器内科医師の休職、3月末で外科医の退職があり、医師の常勤確保が喫緊の課題である。当直非常勤医師の継続雇用をするなどで、勤務医の負担軽減を図っている。看護師・介護士においては、リクルート活動を他府県にも積極的に広げ、修学生制度の利用率を上げながら人材確保に繋げる。ブースによる求人も併せて活用している。

全体的に、『入りを計る、出づるを制す』という観点から、新年度は識者の助言を参考にしながら、①病棟・外来構成、②看護勤務態勢、③システム面等の見直しにも、メスを入れていく構えである。

【法令遵守違反の件について】

平成26年5月14日・7月31日の2回にわたる適時調査の結果、12月24日に講評を受けた。

内容は、適時調査範囲内で、平成23年3月・4月・5月、平成24年11月の療養病棟における基準を満たさなかった4ヶ月分。平成26年4月のリハビリ充実加算の基準を満たさなかった1ヶ月分。平成26年5月の回復期リハ看護要員基準を満たさなかった1ヶ月分を自主返還すること、であった。

総額にして、約69,000千円の返還となる。

平成27年5月29日までに、返還同意書を近畿厚生局に提出する。

この間、法令遵守監査委員会の立ち上げ、印鑑登録制、届け出要件チェック、コンプライアンス研修会の実施、コンサルによる内部適時調査の実施など、診療報酬のみに留まることなく多角的に態勢を整えているところである。

責任の所在については、理事長・副理事長の進退を含め理事会に委ねた結果、平成27年6月任期満了までの期間続投を命ぜられ、応分の減給処分とした。

コンプライアンス元年として、相互牽制態勢を強化し、再生ヴォーリズ記念病院を目指す。

以上

ヴォーリス記念病院 貸借対照表

平成27年3月31日現在

(単位：円)

資産の部		負債の部	
科目	金額	科目	金額
〔流動資産〕	598,254,392	〔流動負債〕	299,515,441
現金・預金	260,181,100	買掛金	60,365,666
医業未収金	297,562,819	未払金	117,836,666
未収金	6,619,942	預り金	10,217,109
棚卸資産	11,394,942	仮受金	0
前払費用	1,082,903	賞与引当金	60,000,000
役員従業員短期貸付金	23,200,000	一年以内返済長期借入金	51,096,000
他会計短期貸付金	0		
立替金	288,726		
仮払金	41,060		
貸倒引当金	△ 2,117,100		
		〔固定負債〕	1,096,698,051
〔固定資産〕	1,599,284,132	長期借入金	711,251,624
<有形固定資産>	1,595,566,337	他会計長期借入金	328,695,775
建物	1,371,848,104	長期未払金	56,750,652
構築物	36,768,517	退職給付引当金	0
医療用器械備品	128,621		
その他の器械備品	58,915,743	負債の部合計	1,396,213,492
車輜及び船舶	38,825		
土地	33,522,364	資本の部	
リース資産	94,344,163	国庫補助金等	296,940,000
<無形固定資産>	3,717,795	剰余金	
電話加入権	431,732	当期末処分剰余金	550,520,202
ソフトウェア	3,286,063	(うち当期剰余金)	(△127,451,424)
〔その他の資産〕	46,135,170		
出資金	585,000	資本の部合計	847,460,202
敷金	684,000		
長期前払費用	24,310		
保険積立金	44,841,860		
資産の部合計	2,243,673,694	負債・資本合計	2,243,673,694

2014 年度 主な行事・出来事

2014年度（平成26年度）主な行事 出来事

4月

- 1日 入社式 新入職員 18名、前年途中入社 23名
1日～5日 新入職員オリエンテーション
- 3日 自己啓発セミナー（新入職者対象、ウォーターハウス）
- 7日 新棟東館3階 リハビリテーションセンター開所
- 8日 各部署 H26年度計画、方針発表会
- 11日 “生と死を考える会 淡海” 総会
- 14日 在宅サービス部門3事業所（訪問看護・居宅・ヘルパー）、新棟東館1階にて開所
- 21日 HIV院内研修会

5月

- 9日 W. M. ヴォーリズ召天50年 記念の夕べ（ホテルニューオウミ）
- 10日 第85回近江兄弟社 恒春園記念式（近江兄弟社学園 平和礼拝堂）
- 12日 「看護の日」イベント
- 14日 決算理事会
- 20日 HIV院内研修会
- 24日 第96回開院記念式・永年勤続・ボランティア表彰
病院 春季追悼会（ケアハウス信愛館）
- 26日 DPCシステム導入
- 28日 評議会

6月

- 7日 「ボランティアの集い」
- 13日 リスクマネジメント部会研修会
①年間集計発表 ②症例発表 ③グループワーク
- 14日 ホスピス偲ぶ会（グリーンホテルYes 近江八幡）
- 19日～21日 韓国研修“ヴォーリズ建築を巡る旅”
- 24日 HIV院内研修会
- 28日 第39回 里モニター会

7月

- 1日 “びわこメディカルネット”運用開始
- 4日 新入職員歓迎会（グリーンホテルYes 近江八幡）
- 7日 リスクマネジメント部会研修会
①年間集計発表 ②症例発表 ③グループワーク
- 13日 職員会主催 「夏のBBQ」（休暇村 近江八幡）

8月

他部署体験（今年度4月新規採用者と前年度途中入職者の常勤勤務者対象）

- 1日 院内安全衛生委員会主催 メンタルストレスチェック講演会（管理職対象）

9月

2日 教育委員会主催 “職員満足度・理解度アンケート”実施

9日・12日・19日 個人情報対策委員会主催研修会

14日 職員会主催 秋の厚生旅行（USJユニバーサルスタジオ・ジャパン）

21日 管理職者研修「医療安全について」

23日 滋賀県病院協会ソフトボール大会（今津総合運動公園）

10月

1日 「亜急性期病床」廃止、「地域包括ケア病床」新設

4日～11月3日 W. M. ヴォーリズ没後50年記念企画展

“ヴォーリズ・メモリアル in 近江八幡”

11日 病院 秋季追悼会（ケアハウス信愛館）

20日 第21回初期消火競技会（近江八幡消防署）

25日・26日 “リレー・フォー・ライフ・ジャパン2014しが”参加（近江八幡休暇村）

29日 メディカルフィットネスセンター・ヴォーリズ、平和堂近江八幡店内営業終了

11月

6日 メディカルフィットネスセンター・ヴォーリズ、老健センターにて営業開始

8日 ホスピス偲ぶ会（グリーンホテルYes近江八幡）

11日 第1回防災訓練実施

11日・12日 里教育委員会主催研修会

「認知症の理解と対応について」

講師：渡辺 哲弘 氏

14日 献血（老健センター1F研修室）

19日 院内救命救急講習会（希望者のみ）

26日～28日 教育委員会主催 “自分発見のためのグループワーク”（10回）

12月

1日～9日 教育委員会主催 “自分発見のためのグループワーク”（10回）

4日 保健所による立ち入り検査

6日 第40回 里モニター会

13日 第85回三方よし研究会（ホテルニューオウミ）

「在宅療養支援病院の役割について」

当院院長補佐 三ッ浪 健一 氏

- 19日 教育委員会主催 インスタントシニア体験
講師：滋賀県社会福祉協議会 濱谷 氏
- 20日 病院クリスマス祝会
- 22日 近江兄弟社グループ クリスマス祝会（近江兄弟社学園 平和礼拝堂）
- 27日 仕事納め 院内巡視

平成27年1月

- 15日 事例検討会 テーマ：「人と寄り添うケア」
- 19日・20日・27日 院内感染防止対策委員会主催 院内感染・医療安全講習会
「エボラ、新型インフルエンザ対策としての防護服の使い方」
- 24日 2014年度第1回 ヴォーリズがんセミナー（ケアハウス信愛館）
「“悲しみ”と“愛（かな）しみ”」
関西学院大学 人間福祉学部教授 坂口 幸弘 氏
- 30日 創立記念の夕べ（グリーンホテル Yes 近江八幡）

2月

- 2日 第110回近江兄弟社創立年記念式典（近江八幡教会）
- 2日～18日 成人看護実習
- 14日 2014年度第2回 ヴォーリズがんセミナー（ケアハウス信愛館）
「これからのとき」
京都産業大学 学生相談室主任カウンセラー 米虫 圭子 氏
- 20日 職員会主催：職員親睦会（近江八幡市串春）

3月

- 1日 “生と死を考える会 淡海” 公開講演会（ケアハウス信愛館）
「まさか、この私が」～脳卒中からの生還～
神戸大学大学院保健学研究科客員教授 関 啓子 氏
- 7日 平成26年度 里モニター会慰労会（ケアハウス 信愛館）
- 9日・10日・16日・20日 接遇委員会主催接遇研修
講師：吹田 康枝 氏
- 14日 2014年度第3回 ヴォーリズがんセミナー（ケアハウス 信愛館）
「虹のかけ橋の向こうに」
ヴォーリズ記念病院 チャプレン 安部 勉 氏
- 17日 財団理事会（アンドリュース記念館）
- 18日 平成27年度事業計画説明会（各部署）
- 24日 第2回消防・避難訓練実施
- 24日・30日 給与体系・新目標シート説明会
- 25日 評議委員会（アンドリュース記念館）

各部報告

診療部

◆消化器内科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名
非常勤医師 : 5名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日・木曜日・金曜日・土曜日（第1・3・5週目）
入院 : 約 30 床

【診療内容】

腹腔内臓器全般の診療、特に内視鏡的処置として、胃・大腸腫瘍に対する内視鏡的切除術、消化管出血に対する内視鏡的止血術を行っております。消化性潰瘍のヘリコバクター・ピロリ菌の除菌療法、炎症性腸疾患の治療、各種消化管疾患の治療を幅広く行っております。そして、慢性肝炎のインターフェロン療法、あるいは膵胆道腫瘍に対する減黄術、ステント挿入術などの診療に当たっております。また、吐血・下血などの緊急対応も可能な限り行っております。

◆循環器内科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名
非常勤医師 : 3名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日
入院 : 約 30 床

【診療内容】

急性期から慢性期の患者さんに対応しております。心臓超音波検査・頸部動脈超音波（年間約1000例）やトレッドミル検査（年間約100例）他生理検査を行い、各種心疾患の早期診断、治療を行っております。

◆糖尿病内科

【スタッフ】

常勤医師 : 0名
非常勤医師 : 3名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日
入院 : 約 10 床

【診療内容】

糖尿病の治療、教育入院、外来における糖尿病教室行っております。NST とも協力して、栄養評価、指導をよりきめ細かいものに行きます。

◆呼吸器科

【スタッフ】

常勤医師 : 1名
非常勤医師 : 4名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・火曜日・水曜日・木曜日・金曜日
入院 : 約 10 床

【診療内容】

一般市中肺炎から COPD 等の慢性肺疾患、結核や非定型抗酸菌症の診断や治療（現在結核入院は受け入れておりません）、肺癌の診断、気管支鏡検査、肺癌の治療（主に抗癌剤治療）、気胸手術など幅広く対応しております。アスベスト疾患の2次検診についても対応しております。

◆一般消化器外科・肛門科・麻酔科

【スタッフ】

常勤医師 : 2名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・水曜日・木曜日・金曜日・土曜日

入院 : 約 30 床

【診療内容】

急性期疾患（急性虫垂炎、腸閉塞、腹膜炎など）から胃癌、大腸癌、胆嚢癌、膵癌などの消化器癌に対応しております。鏡視下手術も平成 5 年から対応しており、幅広い実績があります。肛門科は内痔核、裂肛、痔ろう、直腸脱、直腸粘膜脱などを幅広く対応しております。内痔核に対する四段階注射法（ジオン療法）を行っております。また、保険診療外ですが、巻き爪の矯正治療（VHO 式）も行っています。

◆整形外科

【スタッフ】

非常勤医師 : 7名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・木曜日・土曜日の午前診

入院 : 約 10 床（外科で対応）

【診療内容】

主に慢性期の患者さんに対応。診断（オープンタイプのMRI など）及びリハビリテーションに力をいれております。非常勤医による手術も行っています（外科での入院になります）。

◆リハビリテーション科

【スタッフ】

脳血管リハビリ専任医師 : 1名
運動器リハビリ専任医師 : 1名
呼吸器リハビリ専任医師 : 1名

【診療体制】

入院 : 約 46 床

【診療内容】

脳梗塞・脳出血後遺症、整形疾患、呼吸器疾患、パーキンソン病・多発脳梗塞・認知症の方に、理学療法、作業療法、言語療法を行っております。

亜急性期病床・回復期リハビリ病棟で入院リハビリを行っております。対象は脳血管疾患の急性期を過ぎた患者さん、整形外科や外科の術後などでリハビリが必要な患者さんなどです。地域連携パスにも参加しています。

◆神経内科

【スタッフ】

常勤医師 : 2名

【診療体制】

外来診療日 : 火曜日
入院 : 約 10 床

【診療内容】

脳梗塞、パーキンソン病、その他各種神経疾患の診断、治療そしてリハビリテーションを行っております。

◆緩和ケア部門

【スタッフ】

常勤医師 : 2名

【診療体制】

外来診療日 : 月曜日・火曜日・水曜日・金曜日いずれも午後

入院 : 約 16 床 (ホスピス病棟)

【診療内容】

ホスピス病棟 (希望館) を開設して 7 年になりました。癌終末期の患者さんに緩和ケアを行っております。今後、湖東地域における緩和ケアの中心を担うべく、心の通ったケアを行っております。在宅ケアにも力を入れております。

◆認知症外来

【スタッフ】

非常勤医師 : 1名 (兼任)

【診療体制】

外来診療日 : 水曜日午後

【診療内容】

アルツハイマー型認知症・脳血管性認知症の治療・リハビリ・相談を行っております。

医局

【目標】

1. 地域医療・福祉への積極的な関わりを通して、東近江医療圏における当院の位置づけと役割分担を明確にする。「病一診」「病一病」連携を更に推進する。
2. 緩和ケア（在宅・ホスピス・デイ）への取り組み。
3. 回復期リハビリテーション病棟の安定した運営に寄与すると共に、新棟リハビリ棟の運営の安定化を図る。
4. インフォームド・コンセントの徹底とチーム医療の確立。
5. 近江八幡市立総合医療センターの後方支援病院としての役割分担。
6. 急性期疾患の患者の確保。
 - ・迅速な診断と的確な治療。
 - ・ベッドコントロールの適正化・迅速化。
7. 外来部門の効率化と専門外来の充実。
8. 健診部門の充実。
9. 電子カルテの活用（効率化、地域ネットワーク、遠隔画像診断システムの導入）、クラウドとの連携強化。

【教育】

個々の医師により研修や専門医試験に向けた研鑽を重ねている。

【今後の課題】

1. 医師事務クラウドを導入し外来診療の効率化が進んだが、今後は外来事務補助をより効率的に行い、病棟業務補助に力を注がせる必要がある。
2. 電子カルテを通して地域ネットワークへ参加し、びわ湖メディカルネットや淡海あさがおネットを大いに活用する必要がある。
3. 訪問診療を能率的に実施できる体制を確立する必要がある。
4. 常勤医の獲得に向けた積極的な活動を行う必要がある。

【平成 26 年度振り返り】

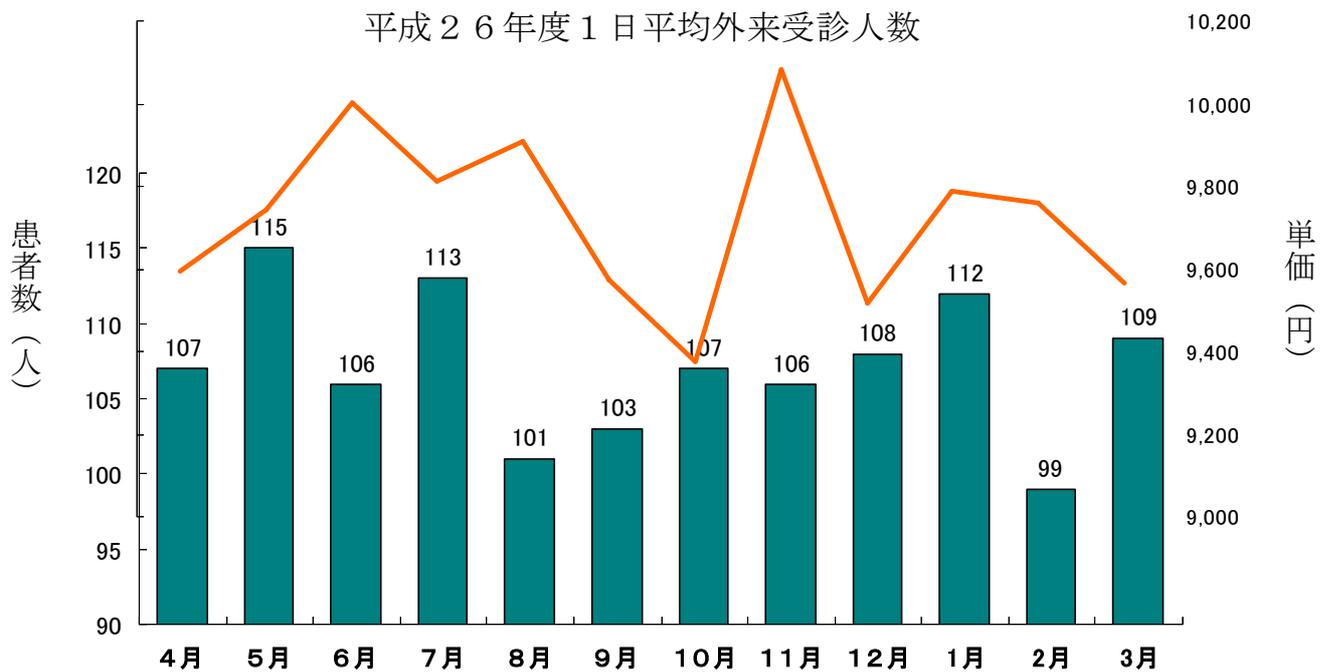
平成 26 年 9 月 1 日に在宅療養支援病院 3 を届出し、訪問診療や緊急入院受入の本格的な取り組みを開始した。

入院診療については、前半、1 病棟が工事の影響を受けて 75% 台の稼働率で推移したのと、ホスピスが伸び悩んだこともあって、予算は達成できなかったが、前年対比では +3.5% であった。平成 26 年 10 月からは地域包括ケア病床を 3 床で運用開始し、平成 27 年 2 月か

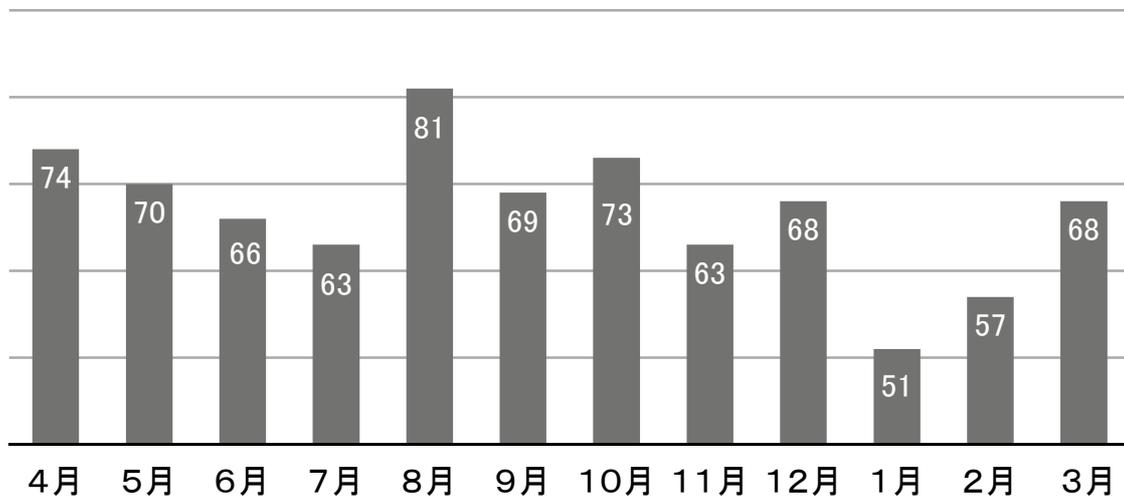
らは5床に増床した。

外来患者数は減少傾向で、予算上の目標達成はできなかったが、1日平均患者数は100人以上を確保できた。

訪問診療患者数は平成27年3月には14人であった。今後は他医療機関からの各種患者を速やかに入院受入し、できるだけ早期に在宅復帰させて、外来や訪問診療患者数を増加させることが望まれる。



紹介患者数



【平成 26 年度 手術件数】

手術名	件数	手術名	件数
痔核硬化療法(四段階注射法)	28	S 状結腸部分切除術	1
大腸EMR	16	胃瘻部不良肉芽切除	1
胃EMR	15	外痔核結紮切除術	1
内視鏡的大腸ポリープ切除術	14	拡大肝切除術	1
痔核結紮切除術	8	根治的リンパ節郭清術	1
開腹胃瘻造設術	5	肝臓部分切除術 S6	1
胃瘻造設術	3	胸膜癒着術	1
外鼠径ヘルニア手術	3	結腸右半切除術	1
直腸脱手術	3	甲状腺全摘術	1
内痔核根治術	3	肛門拡張術	1
胃全摘術	2	痔瘻切開術	1
開腹胆嚢摘出術	2	人工肛門造設術	1
経皮的内視鏡下胃瘻造設術	2	臍尾部切除術(脾合併切除術)	1
肛門ポリープ切除術	2	上行結腸部分切除術	1
痔瘻根治術	2	足骨搔爬術	1
虫垂切除術	2	大腿ヘルニア根治術(腸切除を伴う)	1
直腸低位前方切除術	2	直腸切断術	1
内鼠径ヘルニア手術	2	内視鏡的結腸出血止血術	1
皮膚腫瘍切除術	2	腹腔鏡下胆嚢摘出術	1
鼠径ヘルニア手術	2	幽門側切除術	1
S 状結腸切除術	1		

【平成 26 年度 検査件数】

	GFS	CF	USTG	マンマ		GFS	CF	USTG	マンマ
4 月	62	22	79	3	10 月	112	26	143	15
5 月	92	20	125	9	11 月	68	30	80	17
6 月	126	21	160	16	12 月	87	21	67	11
7 月	130	35	182	17	1 月	85	19	67	15
8 月	113	35	137	22	2 月	103	13	93	14
9 月	105	20	128	12	3 月	83	25	57	5
					合計	1166	287	1318	156

診療支援室

【スタッフ】

常勤職員 5 名。非常勤職員 2 名。内常勤 1 名（9 月より産休・育児休暇から復帰）。
1 月に常勤職員 1 名退職、3 月に常勤 1 名が入職。

【目標】

- ・ 医師の事務作業の負担拡充を図る。
- ・ 関連部署との連携を密にし、業務の円滑化・高度化を図る。

【活動報告】

- ・ 医師の負担軽減に努め、具体的な業務（電子カルテ事前入力・代行入力・診断書の作成補助・主治医意見書の代行業務等）の委譲を明確にし、スタッフの増員を行い業務の拡充に努めた。
- ・ 昨年度からのルーチン的な業務に対しての効率化を図った。（業務の見直し）
- ・ 10 月より算定し始めたデータ提出加算の算定基礎となる DPC 調査に準拠した DPC フォーマットデータの基礎入力に努めた。

【実績】

- ・ 電子カルテの代行入力をはじめ、非常勤医師へのオリエンテーション、医師当直室・医局内の整理整頓、レセ病名の入力・訂正の代行入力に主治医意見書・医師意見書の代行入力、各種書類の下書き・清書書き、病棟の褥瘡の集計作業をはじめ、処方・注射切れの確認作業と医師への連絡業務等、医師の事務作業補助を基本に負担軽減に努めた。
- ・ 今年度より新たに DPC データ加算による医師への負担軽減にも努めた。

【教育】

- ・ 日本病院協会の医師事務作業補助者研修会参加

【今後の課題】

- ・ 定期的な勉強会の実施、医師との教育方針について協議を行い、業務に必要な知識向上と職員のレベルアップに努める。
- ・ 診療支援室内の体制の整備、教育体制の整理・見直しを行い、リーダー格としての人材の養成と育成に努める。
- ・ 今年度実施できなかった積極的な研修会への参加、院内勉強会の実施をする。

診療技術部

【H26 年度活動計画及び実績】

病院の基本理念、職業倫理に基づいて、医療・介護の提供を実践する。

1. 当院の地域における患者ニーズや役割（機能）を見直し、当院の強みを強化する。
ケアミックス病院のなかで、他院からの紹介患者等が早期に地域に復帰できるように、診療技術部各科が協力し、院内の他部門、地域の医療機関および施設と連携して支援する。
2. 医療サービスの質の向上に努める。
 - 1) 地域 ICT の構築、運用により地域医療に貢献する。
 - 2) 電子カルテはじめ各種システムを患者さん中心に、効率化・省力化により他部門とコミュニケーション良く連携して運用できるようにする。
 - 3) 病院機能評価受審に必要なデータ集積、マニュアル改訂を継続する。
 - 4) 地域ニーズに合わせ、他職種によるチームで診療をサポートする。
NST、ICT、褥瘡、緩和ケアチーム、糖尿病教室、感染合同カンファレンス参加など。
3. 各科、各人が目標数字を定め、到達できるよう毎月努力する。
 - 1) 目標数字を達成する。
昨年より収益増を目指し、収益増に結びつくように他部署に働きかける。
 - 2) H26 年度診療報酬改訂を分析し、増収に繋げるように取り組む。
H26 年度介護保険制度改訂、H27 年度介護保険改訂をも視野に入れて検討する。
 - 3) 人材を確保・育成し、各職員が人事評価制度における自己目標の達成をめざし、レベルアップを図る。
 - 4) 職員のコンピテンシー、規律遵守を促す。（報告・連絡・時間厳守・整理整頓）
4. 医療機器・医薬品の安全使用管理・情報提供を徹底し、医療事故を防止する。
医薬品・医療機器の講習会、点検を行い、関係部署に発信していく。
5. 災害時、パンデミック時等に対する危機管理体制を構築する。
6. 公益財団法人の病院として、地域との関わり協働を深める。
介護予防教室、病院・財団、地域の事業に各職種の職能を生かして関わる。
病院の広報誌、ホームページで各職種の働きを地域にアピールする。

【H27 年度の課題】

診療技術部以外の部門、部署と連携を取り、各科の職能を発揮して協力して業務にあたり、患者の治療に貢献する。各科の技能、知識を更に向上させて医療の質の向上を目指す。
H27 年度は介護保険制度改定による、介護予防事業の展開を考える必要がある。

薬局

【スタッフ】

薬剤師 7 名

【目標】

病院の基本理念、職業倫理に基づいて医療の提供を実践する。

1. 医療サービスの向上に努める。
2. 病棟薬剤業務加算を取得する。
3. 目標数字を達成する。
4. 人材を育成し、各職員が人事評価制度における自己目標達成をめざしレベルアップを図る。
5. 機能評価審査受審に必要なデータの蓄積、マニュアル改訂を継続する。
6. 医薬品情報の伝達。

【活動報告】

1. H27 年 2 月に病棟薬剤業務加算を取得した。
2. すべての抗がん剤調製を、閉鎖式器具を使用して薬剤師がおこなった。
3. 1 部の病棟で定期の一般輸液調製を薬剤師が実施している。
4. プレボイト[®] 報告数(日本病院薬剤師会の事業)が滋賀県の病院のなかで一番多かった。

【実績】

H26 年	入院人数	指導人数	指導率	380 点(回)	325 点(回)	退院 90 点(回)	退院指導率
4 月	150	127	84.06%	135	78	37	68.40%
5 月	148	121	81.70%	128	79	25	83.30%
6 月	144	117	81.25%	132	70	31	59.60%
7 月	143	131	91.60%	120	90	34	65.30%
8 月	144	112	77.70%	96	91	26	74.20%
9 月	159	119	74.80%	92	106	37	75.50%
10 月	156	129	82.60%	106	110	37	74.00%
11 月	151	109	70.10%	109	80	31	77.50%
12 月	144	109	75.70%	84	96	30	53.50%
1 月	159	111	69.80%	98	83	35	71.40%
2 月	143	102	71.30%	111	78	25	69.40%
3 月	148	114	70.00%	105	79	32	68.00%

【教育】

実務実習指導薬剤師養成ワークショップ参加
日本医薬品情報学会学術大会参加
日本糖尿病協会療養指導学術大会参加
日病薬 療養病床委員会セミナー参加
滋賀県病院薬剤師会学術大会参加
京滋 NST 研究会参加
日本病院薬剤師会近畿学術大会 参加発表
日本静脈経腸栄養学会学術集会参加

その他、病院薬剤師会、薬剤師会主催研修会に多数参加。

【今後の課題】

- ・ H26 年度に取得した、病棟薬剤業務加算を継続する。
- ・ 後発品使用体制加算の取得を目指す。
- ・ 抗がん剤調製時、無菌製剤加算が取得できるように安全キャビネットを導入する。

診療放射線科

【スタッフ】

診療放射線技師 4名

【目標】

- ① 導入機器を駆使し疾病の早期発見に尽力する。
- ② システムの評価・改善を行い業務の効率化を図る。
- ③ 医療安全。危機管理を行い自己“0”を目指す。
- ④ 担当検査について知識向上のため自己啓発を支援する。

【活動報告】

PACSリプレイス後、安定した稼働を実現できた。

【実績】

H23年度のCT更新時より振り返る。

<CT>

*件数はH23年CT更新以降件数増加している。

H23年 2442件 H24年 2727件 H25年 3071件 H26年 2937件

*よって総売り上げは見掛け上増収傾向にあるが、単価では年々減少。

H23年 8278円 H24年 8074円 H25年 7834円 H26年 7678円

<MRI>

*H23年からH26年の総件数に大きな変化はない。

H23年 1239件 H24年 1186件 H25年 1178件 H26年 1168件

*H26年4月の診療報酬改定により950点→920点の影響もあり売り上げ・単価減少。

H23年 8794円 H24年 7909円 H25年 7789円 H26年 7133円

<一般撮影>

*総売り上げはH24年に減少するも、その後は400万前後を推移。

*H23年～H26年の撮影件数に大きな変化は見られない。

<総収益>

H26年の総収益は減少すると考えられる。理由としてH26年10月からCTの造影検査が減少しており、造影時の手技料が得られなくなっていること、画像管理可算が算定出来ない検査が増加しているのが一要因かと思われる。

【教育】

第 40 回 C T 画像研究会

第 43 回 日本消化器がん検診学会 近畿地方会

第 16 回 関西 G E C T 研究会

【今後の課題】

MRI 導入後 12 年経過、CR 導入後 10 年が経過しており装置の更新の評価。

臨床検査科

【スタッフ】

生理検査部門	常勤臨床検査技師	1名	科長 鯉江 賢二
	非常勤臨床検査技師	2名	
検体検査部門（ブランチラボ）	常勤臨床検査技師	1名	
	非常勤臨床検査技師	2名	

【目標】

検査病態を意識し検査業務の取り組む事をモットーとし、患者に不可欠な臨床検査を目指します。

【活動報告】

当臨床検査科は生理検査部門と検体検査部門に分かれています。生理検査部門は心電図等の循環器検査並びに肺機能測定等の生理検査を実施しています。平成24年5月より睡眠時無呼吸症候群の（SAS）の診断に役立つ携帯型SAS検査を導入致しました。又、DLco（肺拡散能力）検査ができる総合肺機能測定装置（株）フクダ電子を使用提案し、採用致して、間質性肺炎とよばれる、びまん性肺疾患の早期発見、肺気腫など肺の病態診断に役立つ検査を致しております。そして、ホルター心電図（24時間心電図）検査は今までより、より軽減に検査ができる様、装着器の大きさはマッチ箱サイズで上腕に取り付けるタイプの最新式の検査装置（株）フクダ電子を採用しています。検体検査部門は2005年12月1日よりブランチラボ（検査センターメディック）になりました。院内にて緊急項目の血液並びに尿検査を実施しています。又、平成24年5月から糖尿病の診断又は治療の基準となるヘモグロビンA1C検査を院内にて実施しています。

【実績】

生理検査部門

- ① 日本臨床衛生検査技師会員
- ② 滋賀県臨床検査技師会員
- ③ 日本心電学会員
- ④ 日本睡眠学会員
- ⑤ チーム医療CE研究会員
- ⑥ 日本赤十字社救急法救急指導員
- ⑦ 滋賀県安全法指導員協議会員
- ⑧ 公益社団法人臨床心臓病学教育研究会 元教育スタッフ

⑨ 国立大学法人滋賀医科大学精神医学講座 非常勤
学会認定

- ① 日本臨床検査医学会 認定緊急臨床検査士
- ② 日本臨床検査医学会 認定二級臨床検査士（循環生理学）
- ③ 日本生体医工学会 認定第二種 ME 技術者
- ④ 日本睡眠教育機構 睡眠健康指導士上級

検体検査部門

- ① 日本臨床衛生検査技師会会員
- ② 滋賀県臨床検査技師会会員
- ③ 滋賀県臨床検査技師会役員

学会認定

- ① 日本臨床検査医学会 認定二級臨床検査士（臨床化学）

検体検査加算件数

平成 25 年度	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検体検査 加算件数	756	735	774	787	813	735	697	798	762	739	782	695	766

平成 26 年度	平均	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
検体検査 加算件数	720	725	737	710	743	714	702	749	708	672	814	649	725

評 価

2003. 12. 15 に日本病院機能評価 V4 認定。2008. 12. 15 に日本病院機能評価 V5 認定。

2013. 12. 6 に日本病院評価一般病院 1 認定。

社会保険事務局施設基準：検体検査管理加算（I）H15. 12. 1 受理。

社会保険事務局施設基準（施設基準改正による）：検体検査管理加算（I）H20.

5. 1 受理。

検体検査部門を平成 17 年 12 月 1 日からブランチラボとなりました。

【教育】

研修・勉強会

研修会・セミナー参加

① 日本光電(株)主催

睡眠ポリグラフ検査講習会ベーシックコース (出張)

日時：平成26年7月12日(土)～13日(日)

場所：日本光電(株)フェニックスアカデミー

② 滋賀県臨床検査技師会主催 生涯教育研修会

“論文の書き方講習(初級編)～初めての論文を書いてみよう～”(自費研修)

日時：平成26年7月19日(土)

場所：草津まちづくりセンター

③ 自動呼吸機能検査研究会主催

第11回自動呼吸機能検査研究会 呼吸機能検査における研究発表(自費研修)

日時：平成26年9月6日(土)

場所：フクダ電子近畿販売株式会社

④ 日臨工主催

第4回呼吸治療関連指定講習 (出張)

日時：平成26年9月26日(金)～28日(日)

場所：損保会館 大会議室

⑤ 自動呼吸機能検査研究会主催

“第21回琵琶湖セミナー”(自費研修)

日時：平成26年11月29日(土)、30日(日)

場所：ホテルラフォーレ

⑥ 滋賀県臨床工学技士会主催

第12回滋賀県臨床工学技士会呼吸療法セミナー

“基礎から見つめる呼吸療法セミナー”(自費研修)

日時：平成26年12月7日(日)

場所：草津総合病院9階あおばなホール

⑦ 日臨技主催

検体採取等に関する厚生労働省指定講習会 (出張)

日時：平成27年1月24日(土)25日(日)

場所：関西医科大学 枚方キャンパス

⑧ 滋臨技主催

平成26年度生化学部門精度管理事業報告会 (自費研修)

日時：平成26年1月30日(金)

場所：草津市民交流センター

- ⑨ 滋臨技主催
平成 26 年度生化学部門精度管理事業報告会 (自費研修)
日時：平成 26 年 1 月 30 日 (金)
場所：草津市民交流センター
- ⑩ 滋臨技主催
平成 26 年度精度管理一般検査部門事業報告会 (自費研修)
日時：平成 27 年 2 月 5 日 (木)
場所：草津まちづくりセンター
- ⑪ 滋臨技主催
第 4 回臨床一般検査部門研修会
“①尿沈渣の基礎を学ぼう！「上皮細胞類・異型細胞類」編” (自費研修)
日時：平成 27 年 2 月 5 日 (木)
場所：草津まちづくりセンター
- ⑫ 滋臨技主催
第 4 回滋賀県臨床微生物部門研修会 “デング熱感染対策” (自費研修)
日時：平成 27 年 2 月 13 日 (金)
場所：草津まちづくりセンター
- ⑬ 滋臨技主催
平成 26 年度微生物精度管理事業報告会 (自費研修)
日時：平成 27 年 2 月 19 日 (木)
場所：草津市民交流センター

【今後の課題】

- ・携帯型 SAS 検査の普及
- ・肺機能検査の精度管理の充実

栄養科

【スタッフ】

管理栄養士（3名） 調理師（12名） 調理員、調理補助その他（3名）

【目標】

- 1) クリニカルサービス（栄養管理）とフードサービス（給食管理）の両面から「体と心に対し、調和のとれた食事」の提供を目指す。
- 2) NSTの充実を図るとともに、各種地域連携パスに参画し、地域に向けた総合的な栄養ケアに取り組む。
- 3) ムダを省き、増収に繋がる業務を遂行する。
- 4) スタッフの自己啓発を支援し、心身の健康管理に留意。

【活動報告】

- 1) インシデント対策において異物混入、アレルギー除去食について作業手順の改善と、異物混入マニュアルの改正。
- 2) 合併症予防の為、糖尿病食にも塩分制限を加えた食事療法に変更。

【実績】

収益（療養費）

月	療養費収益及び特食比率				
	特別食	比率 (%)	一般食	比率 (%)	合計
4	2,408,322	31.3	5,292,160	68.7	7,700,482
5	2,545,410	34.0	4,931,840	66.0	7,477,250
6	2,320,500	31.4	5,064,960	68.2	7,385,460
7	2,330,496	30.2	5,375,360	69.8	7,705,856
8	2,246,244	28.3	5,694,720	71.7	7,940,964
9	2,090,004	26.7	5,743,360	73.3	7,833,364
10	2,175,924	27.1	5,843,200	72.9	8,019,124
11	1,877,352	24.5	5,772,800	75.5	7,650,152
12	1,923,176	23.6	6,223,360	76.4	8,146,536
1	1,709,808	21.8	6,147,840	78.2	7,857,648
2	1,568,756	22.3	5,465,600	77.7	7,034,356
3	1,772,100	22.4	6,140,800	77.6	7,912,900
合計	24,968,092	27.0	67,696,000	73.0	92,664,092

収益（指導料）

診療報酬	外来 (1300)	入院 (1300)	集団 (800)	N S T (2000)	合計
	加算	加算			
4月	2.600	2.600	15.200	0	20.400
5月	1.300	5.200	15.200	0	21.700
6月	0	1.300	12.000	0	13.300
7月	2.600	2.600	12.800	0	18.000
8月	9.100	0	10.400	0	19.500
9月	11.700	2.600	10.400	0	24.700
10月	10.400	0	14.400	0	24.800
11月	9.100	2.600	10.400	0	22.100
12月	10.400	3.900	10.400	0	24.700
1月	9.100	1.300	6.400	0	16.800
2月	5.200	1.300	12.800	0	19.300
3月	13.000	3.900	12.000	0	28.900
合計	84.500	27.300	142.400	0	254.200

【教育】

（研修・研究）

- 滋賀県栄養士会主催研修会：管理栄養士
- 糖尿病学会：管理栄養士
- 日本静脈経腸栄養学会：管理栄養士
- 日本病態栄養学会：管理栄養士
- 京滋N S T研究会：管理栄養士

【今後の課題】

- 1) N S T加算の取得を進めていたが、条件が満たせず実現しなかった。
- 2) 特食率上昇に積極的に取り組めなかった。
- 3) 栄養指導件数の増加に繋がる対策が立てられなかった。

2014 年度 集団栄養指導



糖尿病教室

*時間：第4木曜日 午後12時～午後1時半

*場所：研修室（療養棟下）

*内容：治療食の試食と各スタッフによる勉強会

1月23日（木）	医師
2月20日（木）	管理栄養士
3月27日（木）	理学療法士
4月24日（木）	薬剤師
5月22日（木）	看護師
6月26日（木）	管理栄養士
7月24日（木）	医師
8月28日（木）	理学療法士
9月25日（木）	薬剤師
10月23日（木）	看護師
11月27日（木）	管理栄養士
12月18日（木）	医師



リハビリテーション科

【スタッフ】

理学療法士 23 名、作業療法士 10 名、言語聴覚士 5 名の計 38 名（内非常勤理学療法士 1 名、言語聴覚士 1 名含む）でサービス実施致しました。

【目標】

1. 当院の地域における患者ニーズや役割（機能）を見直し、当院の強みを強化する。
 - 1) 回復期リハビリテーション病棟の充実したリハビリテーション（6 単位以上／日、365 日実施）の継続実施（表 1）。
 - 2) 医療から介護へシフトする機関であることを再認識し、在宅復帰支援強化に努める。
 - 3) がんのリハビリテーション、障がい児者のリハビリテーション、心臓リハビリテーションを検討し、実行できる体制づくりを行う。
2. 医療サービスの質の向上に努める。
 - 1) リハビリテーション進捗状況がわかりやすく、患者・家族、チーム内で共有できるように動画、画像での説明を実施していく。
 - 2) 病院機能評価付加機能（リハビリテーション機能（回復期））Ver. 3.0 受審の検討。
 - 3) 各セラピストは、院内・外での研修会参加、講義・講演活動を行い、スキルアップに努める。
3. 各部門 各人が目標数字を定め、到達できるように日々努力する。
 - 1) 目標数字を達成する（28,889 万円）。
 - 2) 経費を削減する。
 - 3) 目標達成に向けた取り組みや結果を毎日報告し、状況を共有する。
4. 地域包括ケアシステムの実現に協力していく。

【活動報告】

1. 4 月、ヴォーリズ記念病院東館 3 階にリハビリテーションセンターを開設した。
2. 回復期リハビリテーション病棟の平均単位数が年間を通じて 6 単位以上であった。
3. 医療から介護へのシフトのひとつとして、当院の回復期リハビリテーション病棟や地域包括ケア病床退院患者に対して、継続した訪問リハビリサービスが提供された。
4. がんのリハビリテーション認定講習に 3 名のセラピスト（チームとして医師 1 名、看護師 1 名）が参加し、4 月より算定可能施設となった。
5. 障害児・者のリハビリテーションは 2015 年度より開始することとなった。
6. 動画解析ソフト導入し、カンファレンス等にて動画を利用した説明サービスを開始した。
7. 年間収益は 290,245,280 円（予算比 100.5%、前年比 107.4%）であった。

【実績】

表 1—回復期リハビリテーション病棟実績 (2014. 04. 01～2015. 03. 31)

	回復期リハ病棟 (休日外)	回復期リハ病棟 (休日)	合計
① 回復期リハビリテーション病棟に入院していた患者の延入院日数	11463	2809	14272
② 上記患者に提供された疾患別リハビリテーションの総単位数	83032	9995	93027
イ：心大疾患リハビリテーション総単位数	0	0	0
ロ：脳血管疾患等リハビリテーション総単位数	52408	6121	58529
ハ：運動器リハビリテーション総単位数	30624	3874	34498
ニ：呼吸器リハビリテーション総単位数	0	0	0
1日当りリハビリテーション提供数 (②/①)	7.24	3.55	6.51
算出期間における休日・休日以外の日数	293	72	365

【今後の課題】

1. 作業療法士・言語聴覚士の充足。
2. 障害児・者リハビリテーション、心臓リハビリテーションの実施。
3. 訪問リハビリテーション事業拡大。

メディカル・フィットネスセンター ヴォーリズ

【スタッフ】

常勤スタッフ 社会福祉主事・トレーナー1名 介護福祉士1名
非常勤スタッフ 健康運動指導士1名 理学療法士2名での運営でした。

【目標】

1. 介護予防デイサービス（要支援認定を受けておられる方に対するサービス）
開催日 月、火、木、金曜日
上限定員の80パーセント以上の安定的な稼働率を目標とする。
2. 一般会員（自立生活を送られている方に対するサービス）
利用者の方へ健康に対する定期的な集団指導やイベントを企画して、利用者の健康への意識を高め退会数を減少させる。
3. 利用する全ての方へニーズや症例に応じたキメ細かいサービスを行えるように気をくばり、利用者のQOLと顧客満足度の両方の向上を目指す。
4. 「里」内や他の関連事業所との連携を例年以上に強く取り、デイサービス、一般会員への入会の流れへと展開する。
5. スタッフの知識と技術の向上を図るため、個々の専門分野のさらなる知識や技術の習得に力を入れ、それを他のスタッフへ研修で伝える事により個々の実力の向上を目指し、利用者の方へより良いサービスを提供することを目指す。
6. デイサービスの送迎スタッフの確保をして、業務を円滑に進められる事を目指す。

【活動報告】

1. デイサービス 月・火・木・金 9:30から11:30の運営
2. フィットネス会員 上記以外の時間（日・祝日を除く）
デイサービス、フィットネス会員共に有酸素運動機器や筋肉トレーニング機器などを使用して、基礎体力向上、身体能力向上、リハビリを目的とした運営を行いました。フィットネス会員に対してストレッチイベントや桜の時期にお花見散歩の開催などを行い、会員からの退会防止に努めました。
3. 市内の自治区や活動団体からの依頼による運動講習、ヴォーリズ介護予防教室などの出前講座での講師を実施しました。
4. 11月に事務所移転を行った。平和堂近江八幡の閉店が決定となり6月頃より平和堂担当者と移転補償の交渉を数回に渡り行い、11月1日に老健センター1階へ引っ越し致しました。

【実績】

	デイサービス利用者数	給付単位	フィットネス会員数	収入金額
4月	21	765,640	66	293,729
5月	21	765,640	67	271,645
6月	20	720,180	65	254,522
7月	19	720,250	63	251,654
8月	18	698,700	63	251,914
9月	17	653,240	62	227,838
10月	16	631,690	58	222,859
11月	15	607,850	44	186,720
12月	13	519,230	45	218,888
1月	14	562,390	43	182,623
2月	14	562,390	44	184,766
3月	18	647,220	44	279,461
合計	206	7,854,420	664	2,826,619

【教育】

- ・介護サービス事業所・施設管理者等研修会
- ・介護報酬改訂 集団指導
- ・通所介護事業所 集団指導
- ・身体活動量向上のための合同学術大会

【今後の課題】

- ・フィットネスセンターの収益確保のための今後の方向性の決定。
- ・デイサービス利用者数の確保のための自治体やケアマネージャへの働きかけの実施。
- ・フィットネス会員の退会防止のためのイベントの実施。
- ・デイサービス、フィットネス会員以外での収益の拡大。

ME サービス室

【スタッフ】

常勤臨床工学技士 1名 室長 鯉江 賢二

【目標】

院内の医療機器の保守点検を行い、医療の質の向上と患者に対する医療サービスの向上を目指します。

【活動報告】

近年、多くの医療機器が医療の現場で使用されるようになりました。これらの機器を安全に信頼高く操作、管理することはたいへん重要です。当 ME サービス室（臨床工学部門）は、院内の医療機器の保守点検を行っています。その他、急性期呼吸器疾患に対応できる非侵襲的人工呼吸器をレンタルし、その設定管理を行っています。そして、在宅用の人工呼吸器並びに非侵襲的人工呼吸器と睡眠時無呼吸症候群の治療に経鼻的持続陽圧呼吸装置（CPAP）の貸し出しを行い、在宅医療に力を入れています。

【実績】

- ① 公益社団法人日本臨床工学技士会・日本臨床工学技士教育施設協議会実習指導者
- ② 公益財団法人医療機器センター在宅人工呼吸器に関する指導者
- ③ 日本赤十字社救急法救急指導員
- ④ 滋賀県安全法指導員協議会員
- ⑤ 日本心電学会員
- ⑥ 日本睡眠学会員
- ⑦ チーム医療 CE 研究会員
- ⑧ 公益社団法人日本臨床工学技士会員
- ⑨ 滋賀県臨床工学技士会員
- ⑩ 滋賀県臨床工学技士会 元理事
- ⑪ 公益社団法人臨床心臓病学教育研究会 元教育スタッフ
- ⑫ 国立大学法人滋賀医科大学精神医学講座 非常勤

学会認定

- ① 3学会（日本胸部外科学会、日本呼吸器学会、日本麻酔科学会）
合同呼吸療法認定士
- ② 日本生体医工学会 認定第二種 ME 技術者

- ⑤ 新しい医療機器の導入時の研修
人工呼吸器 サーボS[®] 使用方法について
機種：サーボS[®] 臨床検査科にて 平成26年6月17日(火)、20日(金)
- ⑥ 新しい医療機器の導入時の研修
輸液ポンプとシリンジポンプの使用方法について
機種：TE-131A[®] TE-331S1N[®]、TE-311[®]
外来処置室にて 平成26年7月30日(水)
- ⑦ 従業者に対する医療機器の安全使用の為の研修
カフティポンプ[®] 使用方法について
機種：カフティポンプ[®]
新棟「東館」1階カンファレンスルームにて 平成26年9月5日(金)、17日(水)
- ⑧ 新しい医療機器の導入時の研修
人工呼吸器 サーボS[®] 使用方法について
機種：サーボS[®] 1病棟スタッフステーションにて 平成26年11月6日(木)
- ⑨ 新しい医療機器の導入時の研修
人工呼吸器 Trilogy100[®] 使用方法について
機種：Trilogy100[®] 1病棟108号室にて 平成27年2月10日(火)

研修会・セミナー参加

- ① フクダ電子(株)主催
人工呼吸器 Servo i/s プレパレンティブメンテナンス講習 (出張)
日時：平成26年4月23日(水)
場所：フクダ電子(株)新館2F研修室
- ② 日本光電(株)主催
睡眠ポリグラフ検査講習会ベーシックコース (出張)
日時：平成26年7月12日(土)～13日(日)
場所：日本光電(株)フェニックスアカデミー
- ③ 滋臨技師会主催 生涯教育研修会
“論文の書き方講習(初級編)～初めての論文を書いてみよう～” (自費研修)
日時：平成26年7月19日(土)
場所：草津まちづくりセンター
- ④ 自動呼吸機能検査研究会主催
第11回自動呼吸機能検査研究会“呼吸機能検査における研究会” (自費研修)
日時：平成26年9月6日(土)
場所：フクダ電子近畿販売株式会社研修室

- ⑤ 日臨工主催 第4回呼吸治療関連指定講習会 (出張)
日時：平成26年 9月26日(金)～28日(日)
場所：損保会館 大会議室
- ⑥ ネーザルハイフロー療法勉強会・エア・ウォーター・メディカル株式会社共催
第2回ネーザルハイフロー療法勉強会 (自費研修)
日時：平成26年11月8日(土)
場所：コンベンションホール AP 大阪梅田茶屋町
- ⑦ 自動呼吸機能検査研究会主催
“第21回琵琶湖セミナー” (自費研修)
日時：平成26年11月29日(土)、30日(日)
場所：ホテルラフォーレにて
- ⑧ 滋賀県臨床工学技士会主催
第12回滋賀県臨床工学技士会呼吸療法セミナー
“基礎から見つめる呼吸療法セミナー” (自費研修)
日時：平成26年12月7日(日)
場所：草津総合病院9階あおばなホール

【今後の課題】

- ・昨年度から医療機器の一括管理を始めたが、医療機器の必要台数を検討し管理者へ提案する。
- ・携帯型SAS検査装置の購入により、CPAP治療が必要な患者が増えることが予想される。
在宅治療に力を入れる。

看護部

【H26 年度活動計画及び実績】

- 1) 一人ひとりを尊重した質の高い看護・介護を提供する。
 - ・ KOMI 理論を看護理論とした看護・介護が展開出来るよう、看護部委員会（教育・KOMI 推進・記録）が中心となり記録監査システムを図りケアの質向上に努めた。
 - ・ 院内感染対策として、年 2 回院内巡視や予防に努め院内感染事例の発生はなかった。
 - ・ 退院アンケート、皆様の声、苦情の意見を看護部内で検討・対応し改善を図った。
 - ・ 人事制度の基、個人目標にて能力向上に努めた。年 2 回の面談にて支援した。
 - ・ 院外研修 91 名の参加を支援した。臨床指導者研修 1 名参加資格を得た。
 - ・ 各種カンファレンス「インシデント・アクシデント・倫理」の充実を図った。
 - ・ 機能評価審査での課題について定例会議の中で解決していった。
- 2) 新人、現任教育の充実を図り、よりよい看護を担う人材の育成を行う。
 - ・ 看護部教育ラダー・KOMI 教育ラダーの評価、修正し各ラダー別教育を行った。
 - ・ 各病棟にて教育プログラムを立案し機能に特化した教育を行った。
 - ・ 集合教育に加え、自己啓発にも役立つ「e ランニング」による教育体制を導入した。
 - ・ 人事制度の基、個人目標にて能力向上に努めた。年 2 回の面談にて支援した。
 - ・ 院外研修 91 名の参加を支援した。
 - ・ 里内におけるケアの連携と質向上を目的とし「里ケア会議」を定例化した。
- 3) 人材の確保と定着に努める。
 - ・ 県内外就職合同説明会 3 回参加、県内・外看護学校訪問を行い、今後のリクルート活動のためのマーケティングを行った。
 - ・ 日本看護協会主催による「WLB 推進事業」の継続参加。
- 4) 財務の向上、健全な経営へ参画し、病院経営に貢献する。
 - ・ 各部病棟稼働率・在宅復帰率・在院日数

	急性期病床	地域包括病床 H26 年 10 月～	回復期リハビリテーション 病棟	医療 療養病棟	ホスピス
病棟稼働率	80.4%	100%	94.1%	96.3%	78.4%
在宅復帰率	82%	72.2%	80.9%	21%	21%
在院日数	18.8 日	38.6 日	90 日	241 日	24.5 日

- ・ 看護部病床ミーティング、地域連携課と合同会議を定例化し、日々のコントロールの強化を図った。
- ・ 診療報酬について看護部内学習会を開催した。

【H27年度の課題】

- ・看護部理念に添った全人的ケアの充実を目指し、地域に求められる看護・介護の提供が出来るよう教育体制を構築する。
- ・職員一人ひとりが専門職として自己の向上心を持ち、WLBの推進活動を継続し「人生に優しい職場づくり」を目指す。離職率の低下。
- ・看護要員確保活動を継続し、安定した人材確保が出来るようにする。
- ・キャリアパスシートの評価を行いスタッフ育成支援していく。管理・認知・感染・緩和認定看護師研修への支援を行う。

1 病棟

【スタッフ】

看護師	16名（うち 看護師長1名、主任2名）
准看護師	3名
看護助手	11名

【目標】

1. 急性期から慢性期疾患の患者と向き合い全人的視点で看護展開できる。
2. 一般病棟として経済性を考えた病棟運営を行う。
3. 医療安全・危機管理体制を整え、安全なケアを提供する。
4. 教育、自己啓発の支援を行い個々のレベルアップを実現する。

【活動報告】

- 1ー日々変わる状況に合わせてケア展開できるよう事例検討会をしながら、看護にあたった。
また、主治医やMSW、患者に関わる全ての職種とさまざまな形でカンファレンスを行い、治療、ケアの方針を確認していった。退院先で生活に困らないよう退院前には生活指導、サービス調整を行った。
認知症を伴った患者さまが増える中、病棟内に認知症デイを開設するにあたり、勉強会を開き認知症症状とケアについて学んだ。
- 2ー今年度は東館建設に伴い、病棟環境も悪い中、患者さまには迷惑をかけながらも極端に稼働を落とすことなく運営した。環境が大きく変わる中で、業務改善しながら、工事終了後の9月以降は80%以上の稼働は維持できた。
10月からは亜急性病床に変わり、地域包括ケア病床3床を申請し運用し、必須条件の在宅復帰率や看護必要度A項目10%も維持することができた。
- 3ーインシデント、アクシデントは正直に上げ、毎日行うインシデントカンファレンスに加え、アクシデントが起こった際は随時話し合いを持ったが、スタッフ間の周知やカンファレンスの持ち方等に課題も残った。
- 4ー看護研究で新人看護師育成の振り返りを行うことができた。
積極的とは言えないが、院内、院外研修、病棟内の勉強会で知識、技術を積み上げた。

【実績】

平成 25 年	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月
一般病床稼働率	77.7	72.2	78.5	76.3	74.4	83.6	83.3	85.8	84.2
亜急性期病床稼働率	100	102	100	100	93.3	100	101	100	102
一般入院数	54	59	48	48	54	62	57	53	51
一般退院数	60	36	53	52	39	54	53	43	46
平均在院日数	18.2	17.2	17.7	17.8	18.9	18.0	18.5	19.2	19.1
看護必要度 (%)	11.8	12.2	13.0	13.0	13.7	10.8	12.3	10.7	10.7
平成 26 年	1 月	2 月	3 月	年間平均					
一般病床稼働率	80.9	80.7	86.3	80.3%					
地域包括ケア病床	100	100	100	99.8%					
一般入院数	71	51	52	55 名					
一般退院数	59	40	51	49 名					
平均在院日数	19.8	19.2	18.2	18.4 日					
看護必要度 (%)	16.5	12.1	11.5	12.3%					

【教育】

* 院内研修に加え、スタッフレベルに合った院外研修でスキルアップを行った。

「現場で活かすコミュニケーションスキル」

「退院支援機能強化事業全体集会」

「看護管理が取り組む経済改善のポイント」

「やる気を高めるコミュニケーション」

「看護職に求められる社会人基礎力を育てる」2 名

「京滋 N S T 研修会」

その他看護管理研修等

* 看護学生の臨地実習の受入れを年間 8 回行った。

【今後の課題】

* 2 交替勤務体制の確立と業務改善

* 病棟内での認知症デイ立ち上げ準備と開始

* 亜急性期病床から地域包括ケア病床へ取り組みと運営

* W L B 推進事業への参画

2 病棟

【スタッフ】

看護師長 1 名 看護主任 1 名 ケアワーカー主任 1 名
看護師 8 名 准看護師 2 名 ケアワーカー 13 名 看護助手 2 名

【目標】

- 1, 一人ひとりを尊重した質の高い看護、介護を提供する。
- 2, 経済性を考慮した病棟運営を行う。
- 3, 医療安全、危機管理を行い安全と安心を確保する。
- 4, 個々の人間的成長と能力開発を支援しWLBを推進する。
- 5, 病院機能評価の受審に向け良質な医療、ケアの実践を行う。

【活動報告】

- 1ー・入院患者様の事例発表会を毎月 2 回行い、個別性のある看護介護計画書（ケアプラン）を見直し質の向上に努めている。また毎月患者家族に看護介護計画書（ケアプラン）の説明を行い、患者家族の思いをケアプランに反映するようにつとめた。
 - ・ケアワーカーが主体となり、リハビリ訓練以外でも余暇時間を充実するために週 2 回の遊びリレーションや毎月の誕生会、季節感のある行事を開催した。
 - ・回復期リハビリ病棟合同勉強会（退院支援・ケアワーカーの薬の知識・高次脳障害・多職種連携について・大腿骨骨折・入院患者事例検討会）を行った。
 - ・毎朝リハビリスタッフとの申し送りを 5 月から開始し情報の共有に努めた。
- 2ー・稼働率は 6 月 7 月が目標達成できなかったため病院組織全体で検討し、8 月以降は安定。
 - ・一人一人がコスト感覚を身につけ人、物、金に無駄がない様にリーダー会・詰所会で業務改善を行った。
- 3ー・インシデント、アクシデントのカンファレンスはタイムリーに行い原因究明と対策の実施に努めた。転倒転落のハイリスク者に対しては、リハビリスタッフと検討の場を設けチームで取り組むようにした。
 - ・転倒転落の発生状況は病院へ報告し組織的検討をしている。
- 4ー・個々の目標シートに沿って定期的面談を行い自己啓発への支援、WLBを推進した取り組みを行なった。
- 5ー・全体的なマニュアル類の見直しまでは至っていない。

【実績】

	4月	5月	6月	7月	8月	9月
平均年齢 (男女)	73・79	74・79	75・81	77・80	78・84	75・85
入院入棟数	20	12	17	25	16	14
退院転棟数	13	11	24	21	16	12
稼働率	92, 1	97, 8	89	85, 9	97, 2	97
在宅復帰率	80	60	90	90	91	75
在院日数	102	106	89, 6	73, 4	89, 4	92, 8
重症者改善率	100	100	75		66	50
	10月	11月	12月	1月	2月	3月
平均年齢 (男女)	73・80	77・79	73・80	73・80	69・76	73・80
入院入棟数	18	18	18	12	16	17
退院転棟数	20	15	18	18	20	34
稼働率	95	96.2	97	96	97, 2	95
在宅復帰率	90	77	80	75	91	66
在院日数	87	92	89	88.7	89, 4	88.7
重症者改善率	100	100		62	100	

【教育】

院外研修

- ・感染管理ベストプラクティス研究会
- ・スタッフ、介護職を育てる為に何が必要か
- ・師長の病棟経営と実務に必要な数字活用法
- ・看護職のWLB推進ワークショップ事業、ファシリテーター研修会
- ・災害医療と看護
- ・看護研究の基礎知識
- ・2014年感染対策セミナー
- ・医療安全管理者フォローアップ研修
- ・認知症のある独居高齢者を支える地域ネットワークについて考える
- ・入院から在宅への生活を繋ぐ研修会
- ・看護職員に対する主任の指導的役割
- ・高齢者の理解と認知症患者への対応
- ・回復期リハビリ病棟全職種研修会
- ・認知症ケアの特別研修

看護研究

「食事の時の患者様のおしぼりどうしてる？

～麻痺のある患者におしぼりを提供するときのスタッフの思い～」

実習

近江八幡看護学校 年5回

【今後の課題】

- *回復期病棟を退院された患者様の追跡調査。
- *WLB推進事業の継続。
- *職員の能力評価・能力開発支援（新人スタッフ教育）。
- *質向上の為のマニュアル類の見直し。
- *多職種が協働し患者の医療、ケアの実践を継続していく。

3 病棟

【スタッフ】

看護師 19 名 介護福祉士 14 名 看護助手 7 名

【目標】

- 1、患者と向き合い、その人らしさを支える看護、介護を提供する。
- 2、情報共有を大切に、危機意識を高め、安全で安心できるケアを提供する。
- 3、病棟スタッフ一人ひとりがメンバーの役割を發揮し、共に支え合い、思いやりあるチーム環境作りに参加できる。
- 4、教育の視点を強化し、個々のレベルアップ支援を行う。
- 5、医療療養病棟として病院、地域の役割を果たし、経済性を考えた病棟運営を行う。
ワークライフを考え、確実な病棟管理を行う。

【活動報告】

・家族・本人との定期面談の徹底をするために、次の面談設定を必ずするようにし、確実に出来る様になってきた。家族と話す機会を作ることで、日々の様子や今後の大きな目標設定を一緒にでき、家族との信頼関係も築けてきており、スタッフ間も情報共有しやすくなった。

・朝のミーティング方法を変え、業務分担された業務を受け持ち意識がもてるようにした。病棟全体の受け持ち意識は高まってきている。看護師、介護福祉士の連携も出来る様になり、それぞれの役割を果たせるようになってきた。

・看護助手の数も増え、日常生活援助に入ってもらうことで、レクリエーションの時間を増やせるようにしている。

・患者に寄り添うケアの一環として、患者体験の勉強会を入れ、今年度は入浴体験を行った。

【実績】

①今年度稼働率、平均患者数、医療区分2.3割合、在宅復帰率

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
患者数	57人	53人	59人	59人	57人	59人	59人	58人	58人	58人	58人	56人
稼働率	95%	88%	98%	98%	95%	98%	98%	97%	97%	97%	97%	94%

医療区分	63%	62%	64%	60%	60%	64%	67%	66%	72%	71%	77%	79%
在宅復帰率	66%	0%	0%	50%	100%	66%	0%	100%	100%	0%	0%	0%

患者数平均 57.5 人 稼働率 96% 医療区分 2, 3 割合 67.1% 在宅復帰率 40.2%

・平均患者数としては、わずか達成出来なかった。春に患者数が減る事が多い。死亡退院が多いときに待機患者数が少ない状態が重なって稼働が落ちたと考える。待機患者が多く、かなり待って頂いた月もあるが、そのあたりの対応の難しさも感じる。地域連携とは以前より密にお互いが連絡を取れるようになった。

・医療区分は平均すると昨年の 66% よりわずか上昇ではあるが、今年に入り 70% 代一時的に 80% を超えるときがあり、上昇傾向にはある。しかし、区分が上がると死亡退院も増え、維持していくのは不安定である。

・退院区分 死亡 72% 在宅 14% 施設 11% 病院 3%

・在宅復帰率 50% には満たず。医療区分の高いレスパイト入院が少し増えつつある。上手く療養病棟を利用して頂き、在宅にも帰りつつ、家族の負担軽減もできると良いと考える。

②事象レベル別×発生月別報告書集計表

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	縦計
0	1	4	2	1	1	8	3	2	0	0	0	0	22
1	8	7	8	4	7	9	11	10	6	4	3	0	77
2	3	4	5	4	8	6	3	5	3	5	4	0	50
3a	9	15	7	14	10	12	7	6	7	6	4	0	97
3b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
4b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
J0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
J1	0	0	1	2	0	0	0	0	1	0	0	0	4
J2	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
J3	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
J4a	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
J4b	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
J5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
横計	21	30	23	25	26	35	25	23	18	15	11	0	252

インシデント 155 件 アクシデント 97 件

・皮膚が脆弱になっている上に四肢拘縮により表皮剥離を起こしやすく、勉強会を行う事で日々のケアの中に拘縮予防を行う事の必要性が浸透してきている。

・内服に関しては、再度手順から見直し、確実なWチェックを行う事で服薬に関するインシデントは減ってきている。

【教育】

①病棟勉強会

「拘縮予防とポジショニング」「中心静脈栄養について」「患者体験（入浴体験）」「レスキューについて」「ケアリングについて」

②研究

「よりよいチームワーク構成の為に～報告の習慣化～」をテーマに取り組んだ。

③研修

「スタッフ・介護職を育てるために何が必要か」「師長の病棟経営と実務に必要な数字活用」「医療安全管理者フォローアップ研修」「プロフェッショナルとしての看護職」「認知症高齢者の理解と看護」「認知症ケア特別研修」「社会と組織と人権と職場内で信頼を築くコミュニケーション」「三年目看護職員研修会」「事例を通して入院から在宅調整を考えよう＝それぞれの役割と出来ることについて＝」「実践で活かす！在宅でも出来る皮膚ケア・排泄ケア②」「未来を支える看護の力「現場で活かす！コミュニケーションスキル ～伝える力、伝える力～」」「ファーストステップ研修」

④実習

近江八幡市立看護学校

【今後の課題】

- ・稼働率の維持、達成、処置室を利用し60床を稼働させる。
- ・医療区分の80%に安定させ、入院基本料2から1への変更。
- ・医療区分を確実にとっていける仕組み作り。
- ・区分1の方の方向性について病院、里での話合いの場で現状を伝えていく。
- ・在宅復帰率の把握をし、退院調整加算の検討。
- ・在宅復帰率、稼働の安定、家人の介護負担などレスパイト入院を増やしていく。
- ・医療療養病棟でのケアの充実、定期面談を定着させ、家族とのかかわりを深めていく。
- ・受け持ち意識を高められるような業務内容の見直し、スタッフ間の連携を深める。
- ・レクレーションの充実。
- ・働きやすい環境作り。
- ・患者に寄り添うケアの実践、患者体験の勉強会の定着。
- ・災害時の対応についての勉強会の実施。

緩和ケア病棟

【スタッフ】

看護師 15名 緩和ケア認定看護師 1名 看護助手 2名 ケアワーカー 4名

【目標】

- 1) チームケアの充実を図り全人的ケアを提供する。
- 2) システムの評価・修正を速やかに行い、稼働率維持を考えたホスピス運営を行う。
- 3) 危機管理体制を徹底し、安心・安全なケアを提供する。
- 4) ストレスマネジメント能力の向上を図り、自己啓発の支援を行う。
- 5) 病院機能評価付加受審で得た課題に取り組み、ケアの維持向上を目指す。

【活動報告】

- ・ 緩和医2名・認定看護師1名にてホスピス病棟回診を（1回/週）開始した。
- ・ ドキュメンタリー映画「いのちがいちばん輝く日ーあるホスピス病棟の40日ー」の上映にて啓発活動を継続中。
- ・ 八幡医療センターで細井医師にて院外コンサル開始（1回/週）
- ・ リレーフォーライフジャパン滋賀に看護師4名がボランティアとしてブース出店し、参加協力した。
- ・ 研修受け入れ
 - 豊郷准看護学院 13名 2日間
 - 滋賀医科大学6回生 2名 3週間
 - 関西学院大学人間学部4回生 3名 2週間
 - 近江八幡市立看護専門学校3年生 34名
 - 滋賀県立大学看護部教員 4名
 - 滋賀県立大学人間看護学部 12名 2週間
 - 草津看護専門学校教員 1名
 - 富山県看護協会緩和ケア認定看護師教育課程 2名 3週間
 - 里ケア他部署体験 2名
 - 新入職他部署体験 11名

【実績】

- ・ 外来数：470名（初診196名、再診274名）
- ・ 相談件数：10件
- ・ 見学者数：28名

- ・ 遺族会：偲ぶ会 2回/年（延べ31家族、43名参加）、ライラックの日 29名参加
- ・ インシデント件数：111件、アクシデント件数：28件
- ・ 在宅看取り3件
- ・ ホスピス通信：2回/年発行

	入院	退院	稼働率	コンサル	転入	在院日数	在宅率
4月	14	10	71.75	2	0	26.42	30
5月	12	17	84.13	3	3	27.15	11
6月	20	18	72.06	4	1	23.79	22
7月	19	15	79.81	2	2	21.63	27
8月	16	21	86.25	1	1	22.63	33
9月	14	10	78.75	2	0	24.45	10
10月	12	19	72.75	3	2	24.5	5
11月	16	16	65.94	1	1	24.5	19
12月	17	16	73.75	4	1	24.27	19
1月	12	12	79.56	3	3	24.5	8.33
2月	8	10	86.56	3	2	25.78	10
3月	15	14	76.81	4	1	25.63	14.3
平均	14.58	14.83	77.34	2.66	1.4	24.6	16.52

【教育】

- ・ 京滋緩和ケア研究会：2回/年 延べ7名参加
- ・ 第38回日本死の臨床研究会年次大会：2名参加（発表：ポスター1例）
- ・ 日本ホスピス緩和ケア協会年次大会：2名参加
- ・ ELNEC-J受講修了者：5名
- ・ 院内研究発表：「ここでの料理作りがこいつの生き甲斐でした」
～夫の言葉から生きる意味を喪失した患者のQOLを支えたケアを振り返る～
- ・ 院外研修参加数：延べ100名（出張16名）

【今後の課題】

- ・ 目標稼働率達成に向けて院内外での連携を強化する。
- ・ ホスピスボランティア活動の推進と活動におけるコーディネートを強化する。
- ・ デイホスピスの企画において病院との検討が進まず、具体的な推進計画を立案する。
- ・ 日本緩和ケア協会で目標とされているPCUスタッフ半数以上のELNEC-J受講修了の推進。

外来部門

【スタッフ】

看護師 14名（14名のうち、主任2名） 准看護師 2名 看護助手 1名

【目標】

- ① 患者・家族が在宅で活用できるケアを提案・提供し、看護の質の向上に努める。
- ② 安全・安心なケアを提供し、医療事故防止に努める。
- ③ 他部署との連携を図り、病院経営に参画する。
- ④ 個々の自己啓発・自己成長を支援し、スタッフの育成に努める。

【活動報告】

- ・看護師、クラークのマニュアルをH27年1月に作成し、活用している。
- ・継続看護の必要な患者をA・Bチームに分けて、適宜カンファレンスを行っている。
- ・処置室の採血とミキシング場所を変更。12/3にミキシング台を購入し活用している。
- ・タイムアウトマニュアルを作成し、11月下旬より開始している。
- ・内視鏡室にカードリーダーを導入した。（検査時に診察券が必要）
- ・11月～12月企業を訪問し、インフルエンザ接種を行った。
- ・外来部門で、満足度調査アンケートを11/17～22まで施行。（集計・評価済み）

【実績】

- ・H26年4月～H27年2月までの手術件数・術前・術後訪問件数

手術件数	術前訪問件数	術後訪問件数
101件（局麻含む）	84件	31件（24%）

- ・H26年4月～H27年3月までの内視鏡室各検査件数（年間集計）

腹部超音波	胃カメラ	大腸カメラ
1541件	1189件	287件

【教育】

- ・糖尿病に関する勉強会を2回、輸液・シリンジポンプについての勉強会などを行った。
- ・化学療法についてと、内視鏡に関する勉強会を行った。

【今後の課題】

- ・外来中央業務の移行（外来→医事課） ・移行した後の、外来診療・患者ケアの充実。
- ・継続看護でのKOMI記録システムの活用。・健診（7診）の業務改善。

事務部

【H26 年度活動計画及び実績】

1. 地域・顧客満足の得られる事業展開・運営を目指す。
東館が完成し本格稼動。従来以上に地域ニーズにきめ細かく対応できる態勢が構築できた。入退院調整や患者目線の接遇面でも、期待を上回る対応に注力した。
2. 事業計画・予算達成に向け、健全な病院経営の徹底。
予算未達に終わり、単年度黒字が確保できなかった。
3. 当院の役割（機能）を充実させ、地域連携業務の推進を継続する。
地域病院・施設・開業医との緊密な連携と情報収集を図り、院内へのフィードバック。また各地域での地域連携会議に積極的に参加した。在宅患者安心カード及び近隣開業医の長期休暇時の連携態勢の企画・立案から運用までを主導した。
4. 医療・看護・介護のサービスの質の向上を図るため、法令遵守のもと法定人員・要員確保を計画的に行う。
次世代人材確保の為のリクルート活動を、看護部と共働で軌道に乗せた。また根本的にコンプラ元年と捉え、各種改善策の策定にも積極関与を図った。
5. 職員の心身サポートで覇気・士気を高め、安心を提供できる環境整備に努める。
WLBの推進、メンタルヘルス事業、人事評価制度見直し等にもイニシアチブを取り、またはデータ作成や具体的改善面に関与した。
6. 事務部門の組織を再編し、効率化と連携強化を図る。
年度初めより、旧・総務課と庶務課を合体し 管理課とした。現状維持・旧態依然は『退歩』、新しい発想・問題意識を『進歩』と捉え、業務効率化を目指した。
7. システム管理・セキュリティを整備し、情報管理分野を充実させる。
地域医療ネットワーク（びわ湖メディカルネット）との接続完了。院内ネットワークのアクセスポイント増設、サーバ室移転等を実施し、より安定したシステム運用の実現に注力した。

【H27 年度の課題】

1. あらゆる面で、法令遵守態勢を主導していく。
2. ㈱プリオHと連携し、経営改善プロジェクトを成功裏に導く。
3. 財務面での正念場と認識し、事業計画・予算達成に全力を傾注する。
4. 平成 28 年度の診療報酬改正に向けて、病院の方向性・方針決定のための情報収集に努める。
5. 100 周年事業の準備態勢を整え、方向性・道筋をつける。

医事課

【スタッフ】

常勤 10名 非常勤 6名

【目標】

<医事課>

- ① 医事課は患者さんと一番最初に接する窓口であると言う事を常に自覚し、患者サービスの向上を目指し、笑顔と思いやりのある接遇力を身につける。
- ② 新医事会計システム導入と電子カルテ導入した事により、業務の効率を良くし、適正な人員配置を行う。
- ③ 常業務の請求業務の点検に力をいれ、算定漏れ・ミス防止に努める。
- ④ 他部門との連携をはかり、当院の動向について統計資料や医事コンより各部門に月報資料を提供する。
- ⑤ 保険制度の変更や診療報酬改正への対応。適切な進行管理、院内他部門との連携強化等により、適正かつ公正な診療報酬の請求を行う。
- ⑥ 未収金の管理、督促及び徴収に係る事務作業を行う。

<健診室>

- ① 売上予算実績の5,180万円を達成する。
- ② 健診運営の安定化・平均化を図る。
- ③ 各2次検診・検査の運用体制の明確化を図る。
- ④ 健診が円滑に進む仕組み（流れ）の見直し。
- ⑤ 消費税増税分による価格の見直し。
- ⑥ 新規開拓を計画し、実施する。
- ⑦ 職員の能力アップ。

【活動報告】

<医事課>

- ① 平成24年より電子カルテ導入したことにより、医事課の業務整理を行う。
- ② 今後算定可能な項目がある診療報酬において、算定要件を満たすよう各部門と協力し算定していく。
- ③ レセプト請求業務は、医療事務の質を評価する上で、レセプトの「査定」「返戻」の数値は重要です。

- ④ 電子カルテが導入により、病名漏れや旧保険証にての請求で査定や返戻がありました。査定・減点を減少することを目標に、日々病名チェックの強化を図りました。また、毎月1回減点・査定減・返戻された内容を医局会に報告、医事課内でも報告・検討し、スキル向上を目指しました。

<健診室>

- ① 受診者単価率のUPが出来るように、オプションの促進活動を行った。
 ② 繁忙期の受診月変更交渉を行い、閑散期への受診変更を勧め、健診受診0日を無くした。

【実績】

<医事課>

・ 減点 (円)

4月	40,465
5月	89,142
6月	50,166
7月	98,678
8月	111,606
9月	47,600
10月	31,509
11月	157,565
12月	115,708
1月	108,965
2月	273,309
3月	60,021

<健診室>

- ・ 売上実績 ¥54,680,053 予算の5,180万円より¥2,880,053の増収
 受診人数も前年度より110名の増加

【教育】

研修

- 内容 「病院経営改善セミナー」 大阪
「在宅医療 2014年改定でどう変わったか」 大阪
「必ず知っておきたい医事課業務の基本と実務」 名古屋
「医事研究会」 ひこね燦パレス
「医療介護提供制度にかかる最近の動き、がん登録推進法の施行について」
彦根市立病院
「介護保険制度改正解説と介護報酬改正の対策」 ひこね文化プラザ

「労災診療費請求上の留意点、交通事故診療における留意点について」
ひこね文化プラザ
「働きやすい職場環境とコミュニケーション」
「有能さと自律型人材」

【今後の課題】

<医事課>

- ① 診療報酬の算定漏れがないよう電子カルテとのマスタの紐付け等や無駄な病院持ち出し分を減らす対策を他部門との連携をはかるなど課題があり、今後も継続していきます。
- ② 未収金に関しては定期的に患者さんに連絡をとり、回収率の向上を目指します。今後も継続し病院経営の収入が増えるよう、未収金対策について検討します。

<健診室>

- ① 消費税増税分による価格を見直し、地域との価格調整を行う。
- ② 企業、健保の新規開拓案を考え、実施する。
- ③ 受診数を落とさないような立案を考え、新しいコースの追加等を考えて行く。

管理課

【スタッフ】

- ① 事務部組織改変の一環として、平成 26 年 4 月より、旧・庶務課と旧・総務課がひとつになり、管理課となる。
- ② 平成 27 年 3 月末時点で、常勤職員 9 名、非常勤職員 11 名。
- ③ 平成 26 年 6 月に、1 名、8 月に 1 名、育児休業より復帰。

【目標】 ～ Positive Thinking ～

- ① ヴォーリズ記念病院の職員たる原点回帰と基本理念の実践。礼拝・ボランティア活動への積極参加。仕事は指示を待つだけでなく、積極的に自分から働き掛けていく。
- ② 『4S』= 整理・整頓・整然・清潔をモットーとし、院内全体の設備・備品・環境整備に注力。利用者に満足度の高い快適な療養環境を提供する。
- ③ 病院を支える屋台骨であることを認識し、誇りを持って仕事に取り組む。院内職員が快適に安心して働ける環境作り、“聖域”を設けず経費削減を行い、事業計画・予算達成に寄与する。
- ④ 常に問題意識を持って新しい発想、別角度から考察する習慣作りをする。今が『ベスト』ではなく、今は『ベター』だということを意識する。現状打破をする。現状維持は『現状後退』。

【活動報告】

- ① 一般経費では、水道光熱費の高騰は如何ともしがたく、また 1 病棟改修関連の経費増もあり、前年対比 8,303 千円 (7.0%) 増。エネルギー関係でも、東館の本格稼働の影響が大きく、前年対比 4,974 千円 (8.0%) 増となった。一方 物品在庫管理は、不断の努力が奏功、単月ベースで全月前年対比圧縮が図れた。
- ② 旧・庶務課、旧・総務課が合体したことや職員の育児休業からの復帰等により、業務の役割分担及び責任所在の再見直しを実施した。
- ③ 平成 26 年 4 月に稼働開始した東館の安定稼働・運用のため、各現場部署の声を吸い上げ、課題・問題点を洗い出して対応、また保守点検・業者との打ち合わせに注力した。
- ④ 平成 27 年度からの保育所外部委託と法令改定を視野に入れ、市役所や学園からの情報収集・委託業者選定を行い、方向性を決定した。
- ⑤ 職場環境改善に資するために必要な、就業規則の改定を実施した。
- ⑥ 院内各種システムのセキュリティー強化の観点から、職員のパスワードの更新を実施した。今後も定例的に行う。

【実績】

①一般経費関係

(単位：円)

科目(経費)	平成25年度	平成26年度	増 減
職員被服費	1,923,425	2,037,839	114,414
通信運搬費	3,976,157	4,190,411	214,254
消耗品費	14,202,296	16,705,483	2,503,187
消耗器具備品費	12,889,193	9,345,548	▲3,543,645
水道光熱費	32,478,473	37,444,348	4,965,875
事務・図書印刷費	409,997	196,621	▲213,376
燃料費	30,275,047	29,117,041	▲1,158,006
修繕費	7,234,606	9,832,995	2,598,389
雑費	3,821,360	6,357,423	2,536,063
自動車費	921,768	976,076	54,308
器械賃借料	9,787,796	10,019,386	231,590
合 計	117,920,118	126,223,171	8,303,053

②エネルギー関係

	平成25年度		平成26年度	
	使用量	金額 (円)	使用量	金額 (円)
電気 (病院本体)	1,387,863 (kw h)	26,223,677	1,614,629 (kw h)	32,268,276
上水道	18,377 (m ³)	4,379,077	17,425 (m ³)	4,251,581
下水道	6,281 (m ³)	1,125,748	7,280 (m ³)	1,347,256
灯油	274,000 (L)	24,179,190	276,000 (L)	22,834,864
L P G (ホスピス)	18,262 (m ³)	4,998,772	18,655 (m ³)	5,137,727
L P G (栄養科)	3,535 (m ³)	1,002,140	3,587 (m ³)	1,043,543
合 計		61,908,604		66,883,247

③SPD 在庫推移

(単位：千円)

	26/4月	5月	6月	7月	8月	9月
SPD 倉庫在庫合計	2,385	2,925	2,744	2,694	2,608	2,909
前年対比	▲1,133	▲513	▲827	▲931	▲1,041	▲548
部署在庫合計	3,855	3,761	3,778	3,776	3,782	3,825
前年対比	365	284	493	485	369	310
合計	6,241	6,686	6,522	6,471	6,391	6,735
前年対比	▲768	▲229	▲333	▲446	▲672	▲238

	26/10月	11月	12月	27/1月	2月	3月
SPD 倉庫在庫合計	2,930	2,845	3,220	2,873	2,290	2,769
前年対比	▲545	▲607	▲349	▲580	▲1,232	▲1,031
部署在庫合計	3,790	3,785	3,975	3,765	3,763	3,766
前年対比	285	225	303	143	244	186
合計	6,720	6,630	7,196	6,639	6,054	6,536
前年対比	▲260	▲382	▲46	▲437	▲988	▲845

【教育】

省エネ・防災・設備機器・財務経理等を中心に、研修やセミナーに参加した。

【今後の課題】

- ① 借入金返済原資捻出及び次期投資の着実な履行、職員が安心して働ける勤務職場環境の創出のため、引続き安定的財務基盤の構築を目指す。
- ② 聖域を排除した経費管理の徹底を図ると共に、熱源・空調設備の抜本的省エネ機器への更新を実施し、光熱費削減の具現化を図る。
- ③ 平成27年4月より保育所の外部委託開始。保護者が安心して職務に精励できるよう、直営からのスムーズな移行・運営をサポートしていく。
- ④ 更新した新 SPD システムへの早期順応と、トレーサビリティや物品の期限管理等、各種新機能を有効活用した在庫管理体制を構築する。
- ⑤ 平成28年1月から導入されるマイナンバー制度に関して、研修・セミナー参加での確かな情報収集に努め、職員への周知・啓発やセキュリティ管理面も含め、間違いなき内部管理態勢を構築する。

地域連携課

【スタッフ】

MSW 4名 7月よりMSW1名入職した。
病診連携事務 1名

【目標】

今年度においても、地域連携に関しての院内・院外における活動の幅が広がっている。介護報酬の改定があり、対応できる環境を構築する。病院事業計画に基づいた施設基準の見直しに対応できるよう努める。地域に向け病院機能の周知、地域とのリンクができるよう活動の幅を広げる。

地域連携課としての業務内容に関しても検討し、充実を図る。患者満足の高い退院支援が行えるようチーム医療の一員として役割を果たす。
病診連携に関しても地域ニーズを把握し、ニーズに応じた活動を行う。

【活動報告】

- ① 地域包括ケア病床、回復期リハビリ病棟、療養病棟などの包括病棟における入退院調整を行う。目標稼働率に貢献できるようベッドコントローラー・病棟と連携する。
 - ・ 包括病棟稼働目標を意識して各スタッフが病棟と協力し入退院調整を行う。
 - ・ 他施設、他病院との連携は、お互いの利益のための調整に努める。
 - ・ 紹介ケースに関して、十分な情報提供を行い、早期に受け入れできるよう努める。

- ② MSWとしての相談業務を通じて、患者・家族への支援を行う。
 - ・ 地域性を重視し在宅を目標とした退院支援を行う。
 - ・ 退院については、患者や家族が安心できるよう連携する。各病棟やサービス事業者と調整、カンファレンスを行う。
 - ・ 患者様退院後の生活の質を上げていけるよう努力する。

- ③ 地域におけるニーズの発掘と連携機能の充実を図る。
 - ・ 病院や施設、地域開業医とも密に連絡を取り合い情報収集を行う。得た情報を院内に提供していく。
 - ・ 各地域での地域連携会議への参加を積極的に行う。

- ④ 先方病院への支援を強化する。
 - ・ 近江八幡市立総合医療センターとの連携を引き続き行う。定期訪問と週3回の空床報告を継続する。
- ⑤ 診療報酬伴う対応に関して。
 - ・ 地域連携課として算定できる項目（退院支援加算や介護支援連携指導料など）に関しては算定漏れの無いよう精査し、診療報酬増に繋がるよう努力する。
 - ・ 診療報酬改定に伴う加算や地域包括ケア病床・回復期リハビリテーション病棟・療養病棟の施設基準見直し等に対応できるよう運営協力を行う。
- ⑥ 病診連携機能の充実
 - ・ 病診連携担当職員を配置、データ集積を行い地域の状況やニーズの把握に努める。
 - ・ 開業医との連携強化を目標としスムーズな検査・診察調整を行う。
 - ・ 開業医へ訪問を行う。ニーズを確認しヴォーリス記念病院との有益な連携が図れるよう改善できる点は院内に提示する。
 - ・ びわこネットやあさがおネットなど地域連携医療情報システムの運用に関して、利用促進に努める。

【実績】

26年実績	入院患者数	全体入院割合	退院支援計画書 作成数	退院支援計画書 算定実績
4月	14	18%	46	43
5月	15	18%	56	25
6月	18	22%	44	38
7月	24	27%	41	36
8月	21	26%	42	28
9月	28	31%	51	36
10月	24	29%	40	30
11月	16	20%	44	27
12月	19	25%	35	28
1月	27	29%	51	26
2月	26	33%	42	25
3月	21	24%	45	34

【教育】

自己研鑽を行い連携と相談業務の質を高める。

- ・ 学会や研修会などの参加を積極的に行い最新情報の把握に努める。
- ・ 症例発表や学会発表などにも取り組む。
- ・ 自己啓発を積極的に行い、知識・技術の向上に努める。
- ・ 資格取得を行い各自のスキルアップに努める。

【今後の課題】

地域連携課での中心業務となるMSW業務に関しては、院内での包括病棟稼働目標を意識して各スタッフが病棟と協力し入退院調整を行うことができている。

療養病棟・回復期リハビリ病棟に関しての稼働率安定に貢献した。

療養病棟・回復期リハビリ病棟に関して、ベッドコントローラーや各病棟と協力しスムーズな入院と転院が意識づいてきている。

また、退院・転棟に関しては、主治医との退院・移動時期の目安がはっきりとせず、一般棟での在院日数が長期化するケースもあった。

どの病棟で入院を継続していくことが適切なのか、医師だけでなくNs・MSW・リハビリ・コメディカルなどのチームからも相談できる体制を作る必要性があり、医師、各病棟師長、地域連携課による患者受け入れの会議を週1回開催し、受け入れをスムーズにできるよう調整している。

26年10月より地域包括ケア病床が開設した。以前の亜急性期病床と違い看護必要度の割合や、在宅復帰率、復帰先に老健が含まれないなど、以前よりも制限のある中での病棟運営が必要となる。そのため地域包括ケア病床に関しても会議を週1回開催し、運用に関して調整をしている。紹介に関しては、近江八幡市立総合医療センターを中心として東近江圏域やそれ以外の地域からもある。

地域医療の充実を図るため、近江八幡市立総合医療センターとの連携に関しては特に重要になる。今後の東近江医療圏域での病床編成があり、ヴォーリズ記念病院として地域に向けどのような医療が展開できるかを確認し、方向性に基づいた連携が行えるよう努力したい。

企画渉外課

【スタッフ】

常勤職員 2 名 非常勤職員 1 名

【目標】

- 本来の企画・渉外課の業務の見直しを図る。
- 経営管理・運営にかかる統計・分析を行い、企画・立案を行う。
- 法令順守のもと法廷人員・要員の確保を計画的に行う。
- 内部顧客の支援体制の整備に努める。
- 診療報酬改訂に伴う病院の方向性を決定するために企画・渉外活動を展開する理念に基づく公益財団法人全体の中長期計画策定への着手とその進捗の確認。

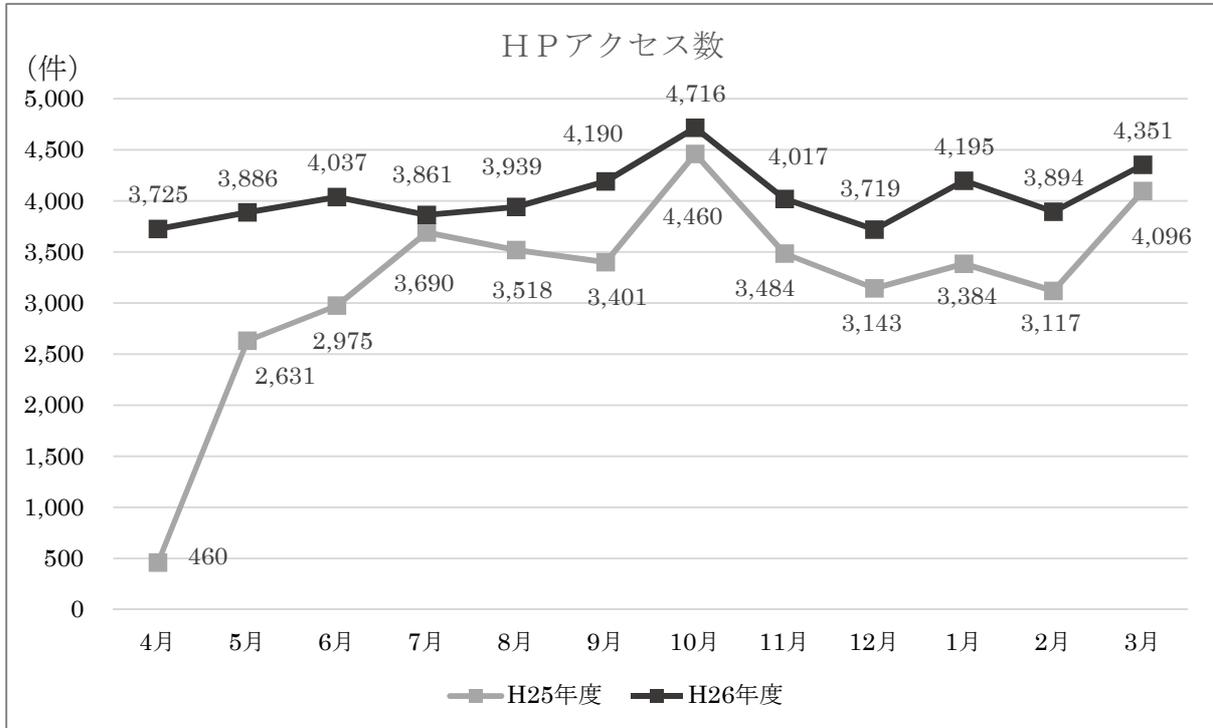
【活動報告】

- 各種医療情報の収集および提案する基盤となる企画・渉外課の立ち位置を再確認し、業務の整備を進めた。
- 目標達成のための医業収入、医業支出の是正・調整を運営委員会、戦略会議に活かせるように各部署との連携を図り、企画・立案を行った。
- 次世代に向けての人材確保、計画に基づいたリクルート活動を含む要員確保のための年間計画をしっかりと立案し行動した。
- 法令順守のもと内部監査の強化を図り健全な病院運営をサポートするよう努めた。
- WLB の推進、メンタルヘルズ事業、人事評価制度の見直し等、内部顧客の支援に対し、企画・立案を行った。

【実績】

- 病院内外の様々な行事に参加し、企画渉外課としての役割・立場の確立を目指した。
- 在宅患者安心カード・近隣開業医との長期連休時在宅患者緊急時対応の実施等、企画・立案から運用までを行った。
- 地域の皆さまの健康と福祉の増進に努めるべく出前講座を 3 回開催。
- 各部署毎に分かれていた病院のパンフレットを 1 冊にまとめて新しく作成。
- 在宅療養支援病院として、地域の開業医との連携を図るべく、当院にて懇談会を開催した。

- 病院新ホームページの内容の充実に伴い、閲覧者の増加・問合せが急増し、当院に対して興味を持っていただいた方が増加し、看護部用ホームページの作成まで取りかかる事が出来た。



- 業者タイアップ型の求人サイトを契約し、既卒者、学生からの資料請求や病院見学の依頼件数も増加し、山陰・四国・九州・沖縄へのリクルート活動を展開し、新規人材確保への礎となる第一歩を踏み出すことができた。県内・京都への各専門学校及び県内外の高等学校までリクルート活動を広げ活動を行った。

< 県内訪問 >

- ・ 高等学校 10 校
- ・ 専門学校 3 校

< 県外訪問 >

- ・ 京都 … 専門学校 5 校、 大学 5 校
- ・ 山口方面 … 高等学校 3 校、 専門学校 1 校
- ・ 九州方面 … 高等学校 11 校、 専門学校 4 校、 大学 1 校
- ・ 沖縄方面 … 高等学校 7 校

< 県内就職説明会 >

- ・ 9 件

< 求人サイト合同就職説明会 >

- ・ 5 件 (彦根、大阪、山口、福岡、沖縄会場)

【教育】

- 新規入職者・途中入職者に対し、人事制度の説明を行い、趣旨を浸透させた。

【今後の課題】

- 引き続き、各種医療情報の収集および提案する基盤となる企画渉外課の立ち位置を再確認し、業務の整備を進める。
- 目標達成のための医業収入、医業支出の是正・調整を運営委員会、戦略会議に活かせるように各部署との連携を図り、企画・立案を行う。
- 次世代に向けての人材確保、計画に基づいたリクルート活動を含む要員確保のための年間計画をしっかりと立案し、3年後・5年後等の中長期リクルート計画を作成して行かなければならない。
- 法令順守のもと内部監査の強化を図り健全な病院運営をサポートする。
- WLB の推進、メンタルヘルズ事業、人事評価制度の見直し等、内部顧客の支援に対し、企画・立案を継続的に行う。

システム室

【スタッフ】

- ・ 常勤 1名
- ・ 平成26年7月係長退職に伴い新規採用1名が入職。

【目標】

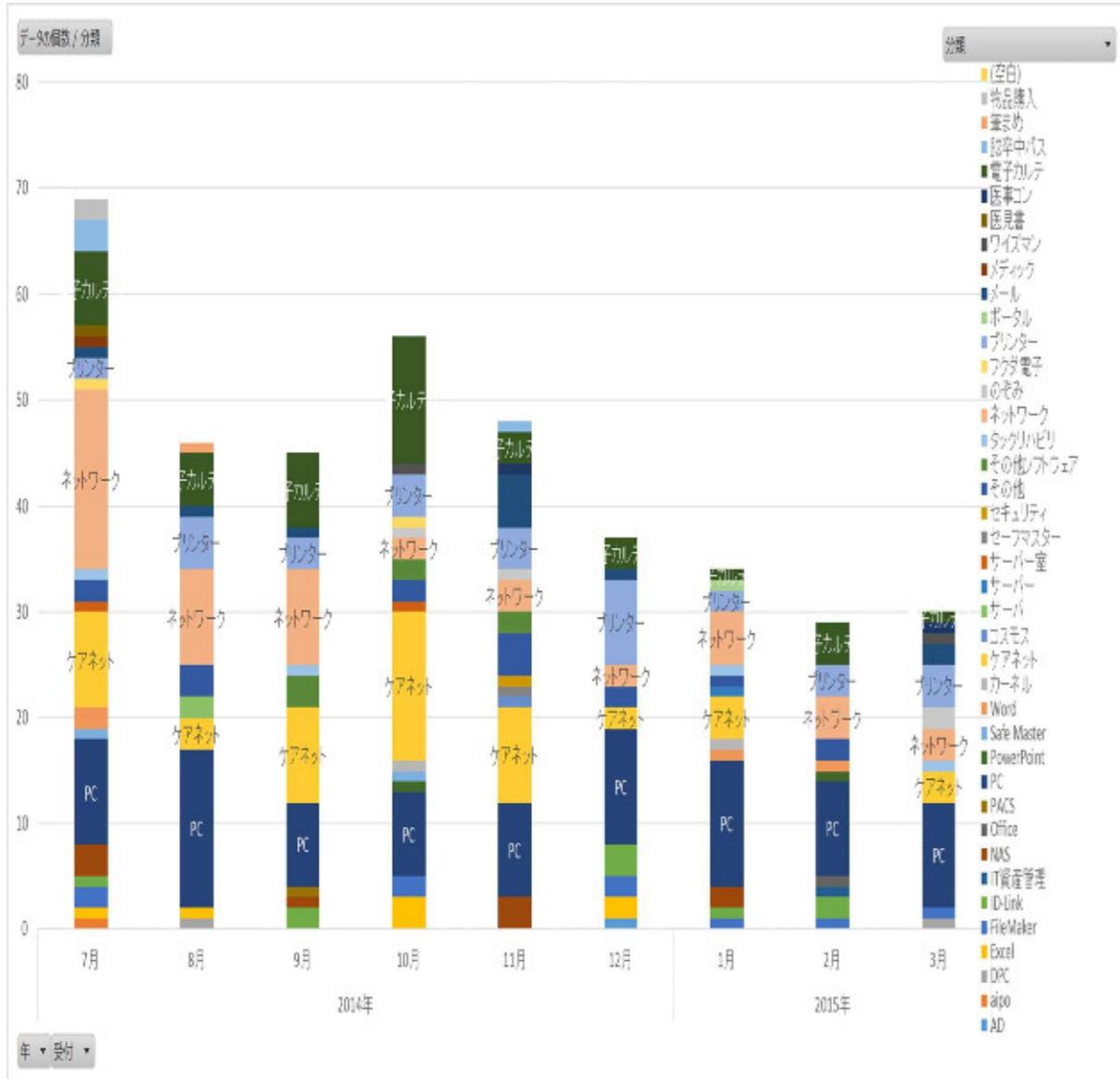
- ① 東近江医療圏医療情報連携ネットワークに向けた院内情報システムの整備を行う。
- ② 院内ネットワーク及びVPNの見直し、より安定した情報システムの構築を行う。
- ③ 電子カルテ等情報システムについての運用の評価分析を行い、効率化・省力化に継続的に取り組む。
- ④ 東館において、より効果的な情報ネットワークを構築する。

【活動報告】

- ① ID-Linkを導入し、地域医療ネットワーク（びわ湖メディカルネット）との接続を完了した。
- ② 院内ネットワーク（電子カルテ系統）において東館へのLAN敷設、無線LANアクセスポイント増設、サーバ室移転などを実施し、より安定したシステム運用を実現。
- ③ 電子カルテについて各部署にアンケートを実施するなどして評価分析を行った。
- ④ 障害発生時に迅速に対応できるようにサーバ監視ツールを導入した。

【実績】

システム室対応件数(平成 26 年 7 月～平成 27 年 3 月)



【教育】

研修会・セミナー参加

「病院イノベーション展」 平成 26 年 2 月 5 日 インテックス大阪にて

【今後の課題】

- ・ コアリーダーへの教育。
- ・ 電子カルテ更新に向けた検討。
- ・ インターネットシステムの LAN を含めた更なる安定したシステム運用に向けた取り組み。

在宅サービス部門

【H26 年度活動計画及び実績】

在宅サービス部門は、新事務所も完成し職員一同がモチベーションを上げながら利用者数及び職員数の確保に努めた。しかし、新事務所の備品等の減価償却や退職金等の人件費などが大幅にアップし、3 事業所の経常利益は黒字ではあるが 3,415 千円（予算より約 19,000 千円減）となった。地域からのニーズも止む事無く医療依存度の高い方をはじめ認知症や難病、そして小児のケースが増えている。また、がんのターミナルの方々も後を絶たずの状況である。さらに、在宅看取りのケースも増え始め、住民の死生観の醸成と在宅医をはじめとする在宅療養支援チーム（他職種）の連携が充実してきていると思われる。

訪問看護ステーションは、看護師・理学療法士の補充ができ、医療保険制度での「機能強化型訪問看護管理療養費 2」の所得・維持ができており、県内でも大規模の事業所となってきた。ホームヘルプステーションは、介護福祉士が 86%を占め、痰の吸引等の手技取得者が 4 名となり、県内にも少ない能力・質の高い事業所となってきた。居宅介護支援事業所は、新所長の管理のもと 175 件/月をキープしながら地域活動も参画できている。介護予防拠点事業については、例年通り法人全体の協力を得ながら展開できていた。

【H27 年度の課題】

新事務所の運営から 1 年が経ち、さらに「ひと」「もの」に感謝することと、ヴォーリズの基本理念に沿った在宅支援の「核」となっていけるよう、よりスピーディで希望に応じた支援をしていきたい。また、各関係機関との連携を密にしながら、「地域包括ケアシステム」の構築に協力し、「ヴォーリズグループ」が高く評価していただけるよう、質の向上にも努めていきたい。そのためには、これからも職員の定着率の維持と人材育成（教育）に対する力を惜しまぬようにしていきたい。

訪問看護ステーション ヴォーリス

【スタッフ】

管理者(正看護師)1名 在宅看護専門看護師 1名(非常勤)
 正看護師 13名(常勤5名、非常勤8名) 理学療法士 3名(非常勤)
 事務職員 2名(非常勤)

【目標】

- ①「ヴォーリス医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、「里」、「病院」、「老健」、「在宅」が同じ方向に進むよう協力し、連携をとりつつ、より地域から信頼される訪問看護を目指す。
- ②年齢を問わず医療依存度の高い重症ケースや難病等の困難ケースに積極的に対応できるように体制を整え、満足していただける質の高い訪問看護を目指す。
- ③癌末期に限定されない在宅ターミナルケアをヴォーリスの居宅介護支援事業所・訪問介護と協働し、最期までその人らしい生活を支援していく。また、亡くなられた方のご家族のグリーフケアにも努める。
- ④職員一人ひとりの能力の向上のための教育・研鑽の推進と人材育成に努める。
- ⑤法人の経営方針に沿い、収益の向上と経営の安定化を目指す。

【活動報告】

昨年度に比べ、看護師の常勤換算にして 2.4 名増員したことと、理学療法士が 1 名増えたことで訪問件数が 436 件増となった。事務職員も 2 名に増やし、事務業務を効率よく行なえるようになってきている。また、在宅看取りも 22 件となり、がんや老衰のターミナルの方が増え、医療保険では「機能強化型訪問看護管理療養費 2」の取得ができて県内でも大規模の事業所となってきた。収益は、事務所新築移転のための備品等の減価償却や退職金等の人件費も重なり、予算より大幅に下回る 5,957 千円となった。しかしながら、在宅看護専門看護師を中心に、今まで以上に実習生の受け入れや講演活動など訪問看護の質の向上と人材育成に力を発揮している。

【実績】

①訪問件数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
医保	307	303	318	315	337	308	351	262	326	321	311	318	3777
介保	377	430	449	454	455	484	533	485	502	507	508	545	5729

②訪問件数比率 (%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
医保	45	41	41	41	43	39	40	35	39	39	38	37	40
介保	55	59	59	59	57	61	60	65	61	61	62	63	60

訪問件数(医療・介護保健)比率は、ほとんどが4:6(普通は2:8くらい)、医療保険の方が多く重症度も高かった。介護保険の方でも医療保険に変更せざるを得ない重症ケースもあった。24時間コール体制で運営しているが、多い時で50件/月緊急出動している。また、癌疾患の他ターミナル期の方は月平均20名と昨年より多く、在宅看取りは年間22名であった。併設のヴォーリス記念病院からの指示書は約25%で、開業医からは50%弱、医療機関からの依頼が増えている。ケアマネジャーからではなく開業医から直接依頼があることも少なくなかった。地域からのニーズは切れることなく、「ヴォーリスの訪問看護」を求めて下さっている。

【教育】

院内の研修はもちろんのこと、「小児訪問看護研修」「認知症研修」「難病患者の看護研修」「在宅ターミナルケア」「呼吸リハビリテーション」「訪問看護管理者研修」等、専門分野の研修会に数多く参加し、知識・技術の向上に努めることができた。また、「ELNEC-J コアカリキュラム」の研修にも参加し、エンド・オブ・ライフケアの知識を深めることができた。

教育面に関しては、看護学校2校への講義や実習生の受け入れを増やし、新入職員に対する同行訪問などを通して「訪問看護の魅力」を伝えられるようにしてきた。

【今後の課題】

毎年の課題でもある「人材不足」は少しずつ改善してきているが、地域からのニーズは益々増えてきており、「新卒訪問看護師」の受け入れを考えながら今現場で頑張っている職員の定着率をキープするようモチベーションを維持させたい。それには、「訪問看護の魅力」を発信することはもちろんであるが、「働きやすい職場作り」と処遇改善を視野に入れスタッフ一人ひとりへの声掛けを減らさないよう努めていきたい。

来年度は、介護保険制度での「看護体制強化加算」の取得とその継続を目標に、療養者やそのご家族に対し「最期まで我が家で暮らしたい。」という思いに応えるべく、できる限りスピーディで希望に応じた支援をしていきたい。そして、地域から選ばれる「ヴォーリスの訪問看護」として、誇りを持って質の高いサービスを提供していきたい。

ホームヘルパーステーション ヴォーリス

【スタッフ】

平成 26 年度も引き続き、喀痰吸引等の出来るヘルパー2 名を育成することができ、計 4 名が喀痰吸引等ができるヘルパーとして登録し、重症の利用者様や障がいの利用者様にも対応ができた。

【目標】

- ① 喀痰吸引ができるヘルパーが 4 名になり、重症ケースにも引き続き対応し、収益に繋げる。
- ② 在宅ヘルパーを希望する人材育成に力を入れ、住み慣れた地域で最期まで暮らせるようにする。
- ③ 働きやすい職場をめざすとともに、安全運転や職員の健康管理にも留意しながら勤務体制を整える。

【活動報告】

管理者 1 名（サービス提供責任者・介護従事者兼務） 介護従事者 13 名（常勤 5 非常勤 7 名）
事務職員 2 名（内 1 名介護従事者）の体制で活動を実施。

	常 勤	非常勤	資 格 等
管理者	1 名 (サービス提供責任者兼務)		介護福祉士
サービス提供責任者	2 名		介護福祉士
介護従事者	1 名	7 名	介護福祉士・介護基礎研修修了者 実務者研修修了者・2 級ヘルパー 修了者
事務職員	1 名 (介護従事者兼務)	1 名	介護福祉士

【実績】

訪問回数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
介護 保険	1326	1357	1236	1222	1133	1228	1162	1149	1397	1170	1143	1318	14841
障がい者 支援	107	144	165	130	149	135	187	180	206	167	141	156	1867

障がいサービスは年々増え続けており、安定した収益が見込める。(前年より 557 回多い)
介護保険の初回加算は 51 件、緊急加算は 154 回あり、前年より 100 回多い。

【教育】

ヴォーリズ記念病院の職員として院内の研修には、全員が参加することができた。
外部研修については経験年数に応じ、階層別研修・専門分野研修等に積極的な参加を促進した。その他喀痰吸引の研修にも参加し、資格習得ができた。

【今後の課題】

訪問従事者 12 名中 10 名が介護福祉士資格を習得し、内 4 名が喀痰吸引ができるヘルパーとして登録し、事業所のキャリアアップを推進できた。今後も継続して研鑽を重ね、地域から信頼される事業所を目指し、努力をしていきたい。また、事業所加算Ⅰと処遇改善加算Ⅰの申請をし収益アップと職員のモチベーションアップにつなげていきたい。

居宅介護支援事業所

【スタッフ】

管理者(介護支援専門員)1名 介護支援専門員 4名(内主任介護支援専門員 3名)
事務員 1名(非常勤)

【目標】

1. W・M ヴォーリズの創立精神を継承し、「ヴォーリズ医療・保健・福祉の里」の基本理念に基づき、利用者の在宅における生活の質の向上を目指しケアプラン作成に取り組む。
2. 里の連携を強化し、「地域の在宅支援の核」として、地域の各機関との連携にも努め、介護保険制度に基づいた適正な介護サービスを提供する。
3. 新体制のもと事業所内の協力を深め、質の高いサービスを目指し、事業運営の安定を図る。

【活動報告】

新規利用者 48 名を受け入れることができた。その内訳として、在宅 22 名、ヴォーリズ関連施設 14 名、他施設 7 名、医療機関 5 名であった。依頼自体はたくさんあったが、サービス利用につながらないケースも多く、実績としては 48 名となった。

新棟へ移転し、新たな事務所で新所長のもと、新体制で不安もある中、全スタッフの協力を得ながら、新規も随時積極的に引き受け、連携・協働に努めた。

【実績】

月別利用者数(給付)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	1月平均
利用者 人数	172	167	177	180	176	181	181	175	180	174	168	175	175

【教育】

院内研修はもちろんのこと、外部研修にも積極的に参加できるようにした。

外部研修は主に平成 27 年度の介護保険改定に向けての研修や難病・看取り・多種職連携に関する研修、個々のスキルに基づいた階層別研修等に参加し、個々のスキルアップに努めた。

【今後の課題】

平成 27 年度は、介護保険の制度改定に基づき、行政や各関係機関とも連携し、地域からの信頼を維持できるようスタッフが協働し、引き続き積極的に新規依頼を引き受け、安定した事業運営ができるよう努めたい。

介護予防拠点事業 いきいきサロンヴォーリズ

アンドリュース記念館を介護予防事業の拠点として、平成19年から介護予防教室、ゴムバンド体操教室、歌声サロン等の活動を概ね週1回程度の開催から行なってきた。地域からの高齢者が気軽に集える場所として、また活動を通して介護予防の目的も達している。今後も主として在宅サービス部門が担当し、公益財団本部・病院・老健と協働し、地域貢献事業として継続していく。平成26年度は、以下の事業を展開した。

○介護予防教室

	内容・テーマ	講師 等	参加人数
5月	「認知症にならないために」	滋賀八幡病院 心理療法士・精神保健福祉士 谷川 香織 氏	25名
7月	「筋力アップの簡単体操Ⅰ」	メディカル・フィットネス センター ヴォーリズ 久保 大志 氏	25名
9月	「折り紙を楽しもうPARTⅦ」	ヴォーリズ老健センター 施設長 鈴木 輝康 氏	24名
11月	「筋力アップの簡単体操Ⅱ」	ヴォーリズ記念病院 理学療法士 中塚 絵里氏	20名
12月	「折り紙を楽しもうPARTⅧ」 六角形 ～雪の結晶の折り紙～	ヴォーリズ老健センター 施設長 鈴木 輝康 氏	15名
2月	「フラワーアレンジメント」	華道講師 宇田花店 (材料費 500円)	22名
合計			131名

○歌声サロン

	参加人数
4月	41名
5月	29名
6月	45名
7月	26名
8月	37名
9月	37名
11月	47名
12月	28名
1月	28名
2月	33名
3月	26名
合計	377名

○ゴムバンド体操教室（毎週月曜日）

	回数	参加人数
4月	3回	17名
5月	3回	17名
6月	5回	40名
7月	3回	22名
9月	3回	24名
11月	2回	10名
12月	4回	26名
1月	3回	17名
2月	4回	31名
3月	4回	38名
合計	34回	242名

診療情報管理室

【スタッフ】

診療情報管理士（2名）9月より増員となる。

【目標】

- ① 病院経営指標（機能性指標）の分析作成に努める。
- ② 診療情報をカルテ開示・訴訟に耐えられるように努める。
- ③ 統計資料（ICD-10、疾病統計、死因統計）の作成に努める。
- ④ 退院時要約（サマリー）の迅速な作成と簡潔で分かりやすい情報伝達のツールとしての質向上に努める。
- ⑤ がん登録の法制化に伴い、外来・入院患者すべての患者登録や退院時要約、統計の一元化等、診療情報管理システムの構築に努める。

【活動報告】

- ① 平均在院日数、病床回転数、病床利用率、外来入院患者数比率を毎月作成して診療情報管理委員会に報告
- ② 5件のカルテ開示対応
- ③ DPC データ提出
- ④ 入退院診療記録等確認
- ⑤ 疾病別、退院別他 ICD-10 別統計資料作成

【実績】

H26年7～9月、H26年10～12、H27年1～3 厚労省にDPCデータ提出
滋賀医大より脳卒中データ読み取り作業

【教育】

日本診療情報管理学会に登録

平成26年度 院内がん登録実務者初級終了者研修（2014年11月18日）

【今後の課題】

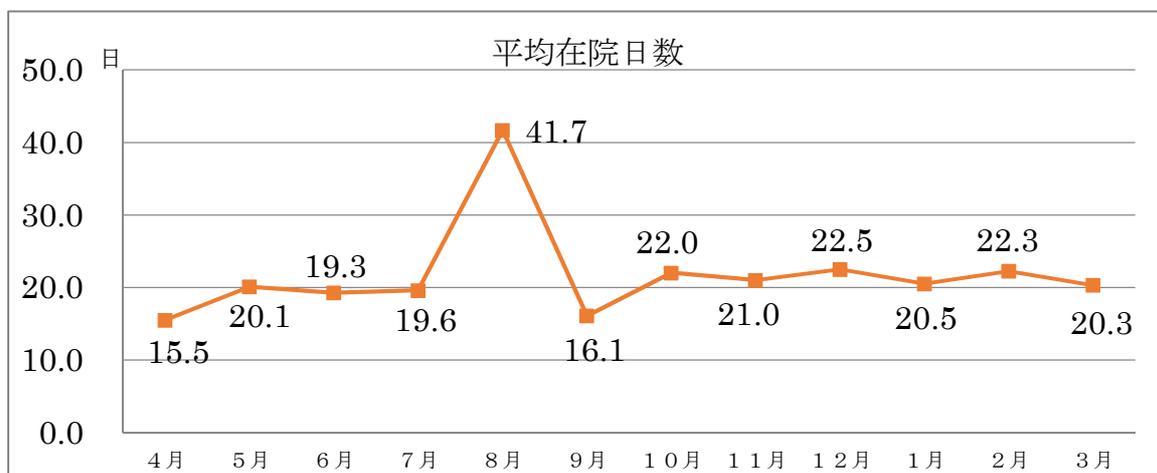
2016年（H28年）1月にがん登録推進法が施行される事により「全国がん登録」が始まる。9月に診療情報管理士が1名増えたので院内がん登録初級認定試験の合格をめざす。電子カルテ内の運用変更をめざしていく。

1 病棟

1 病棟 年間退院数・・・599 名

月別平均在院日数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間
退院数	60	40	54	51	40	54	54	43	49	58	42	54	599
入院日数合計	932	805	1041	1000	1668	870	1190	904	1103	1191	936	1098	12738
平均在院日数	15.5	20.1	19.3	19.6	41.7	16.1	22.0	21.0	22.5	20.5	22.3	20.3	21.3



月別 在院日数ワースト 10

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
4月	54	52	48	47	42	35	32	31	29	29
5月	102	87	75	74	52	48	30	27	25	25
6月	159	89	56	55	41	39	39	28	28	26
7月	74	66	54	50	42	41	40	38	35	34
8月	717	123	100	77	67	61	61	50	43	38
9月	76	45	42	41	36	35	34	29	29	28
10月	98	86	72	65	63	62	62	46	40	40
11月	96	69	56	51	40	37	36	35	33	33
12月	108	100	90	70	66	66	62	61	39	38
1月	83	79	78	72	57	55	50	45	42	40
2月	132	86	74	67	67	61	35	34	28	24
3月	71	60	57	55	54	52	48	48	46	42

8月の平均が伸びたのは、長期療養患者を受け入れたのが要因。

今年度は、比較的穏やかな日数維持ができた。

2 病棟

2 病棟 年間退院数…162 名

脳血管疾患 61 名

脳梗塞	I 6 3 9	39
脳内出血	I 6 1 1	16
くも膜下出血	I 6 0 9	5

大腿骨・その他骨折 80 名

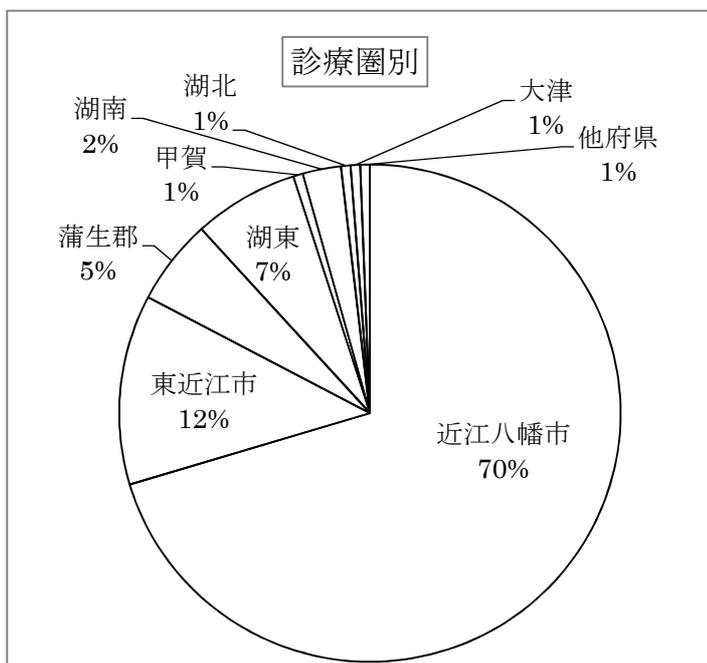
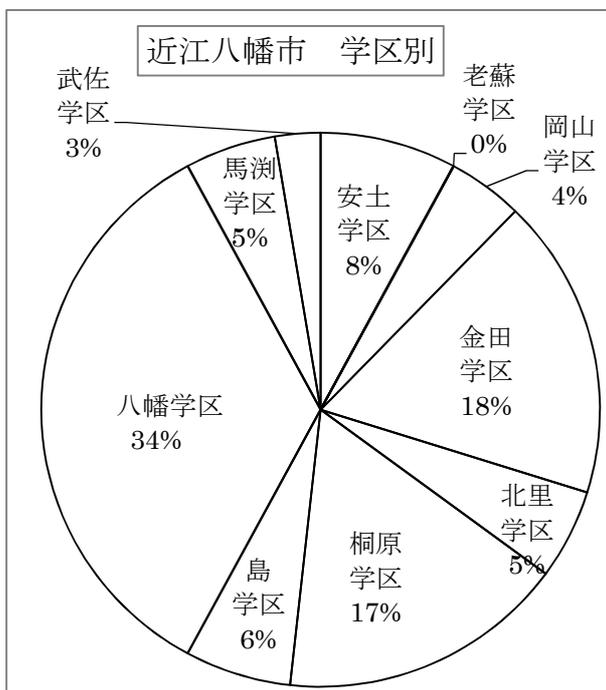
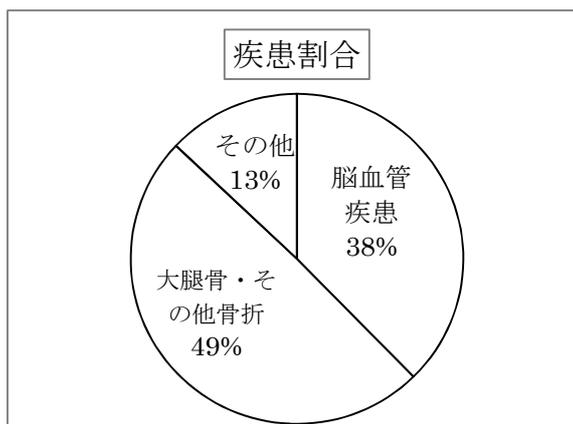
大腿骨転子部骨折	S 7 2 1 0	40
大腿骨頸部骨折	S 7 2 0 0	21
腰椎圧迫骨折	S 3 2 0 0	5

その他 21 名

頭蓋内損傷	S 0 6	4
脊椎症	M 4 7 9 9	3

診療圏別・学区別

	人 数
全 体	162
近江八幡市	114
安土学区	9
老蘇学区	0
岡山学区	5
金田学区	20
北里学区	6
桐原学区	19
島 学区	7
八幡学区	39
馬渚学区	6
武佐学区	3
東近江市	20
蒲生郡	9
湖東	11
彦根市	11
甲賀	1
湖 南 市	1
湖南	4
守山市	1
野洲市	3
湖北	1
長浜市	1
大津	1
他府県	1



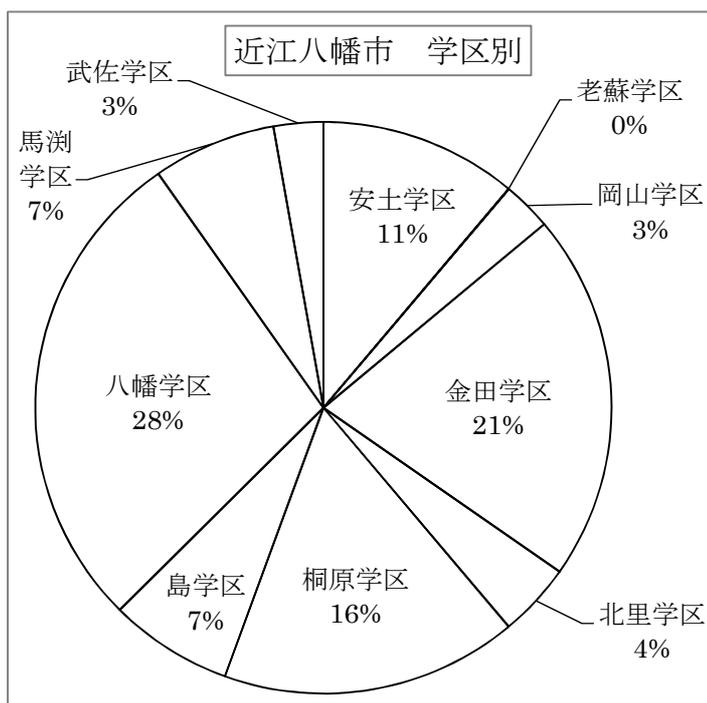
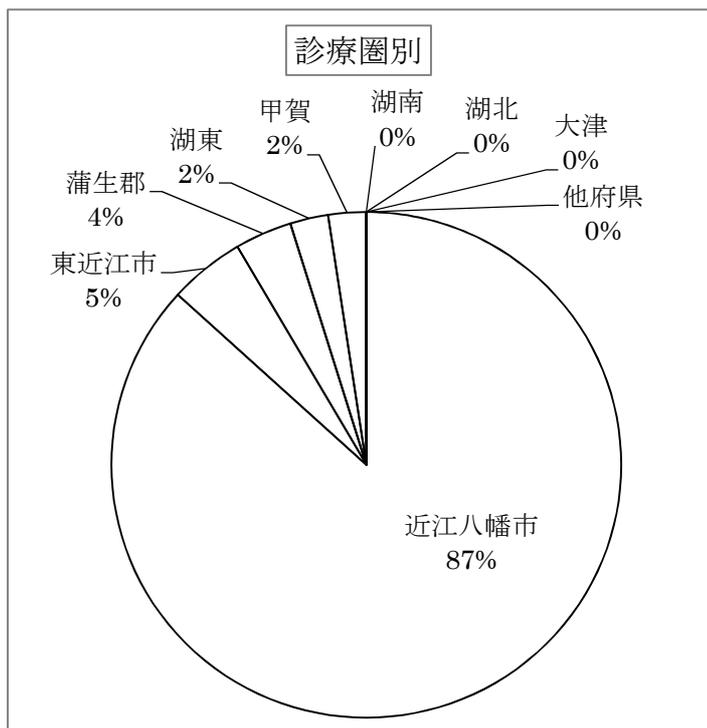
3 病棟

3 病棟 年間退院数…83 名

順位	疾患名	ICD-10	人数	全体率
1	心不全（慢性）	I 5 0	12	14.46
2	脳血管疾患の後遺症	I 6 9	9	10.84
3	肺炎	J 1 8	5	6.02
3	老衰	R 5 4	5	6.02
3	基底核・変性疾患	G 2 3	5	6.02

診療圏別・学区別

	人数
全 体	83
近江八幡市	72
安土学区	8
老蘇学区	0
岡山学区	2
金田学区	15
北里学区	3
桐原学区	12
島 学区	5
八幡学区	20
馬渚学区	5
武佐学区	2
東近江市	4
蒲生郡	3
湖 東	2
彦根市	2
甲 賀	2
湖 南 市	2
湖 南	0
湖 北	0
大 津	0
他府県	0



ホスピス

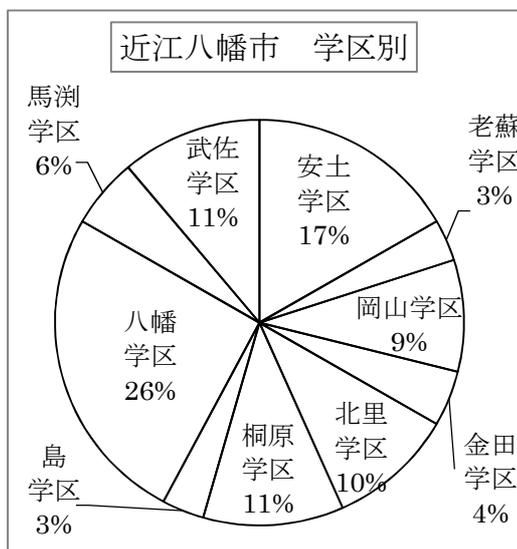
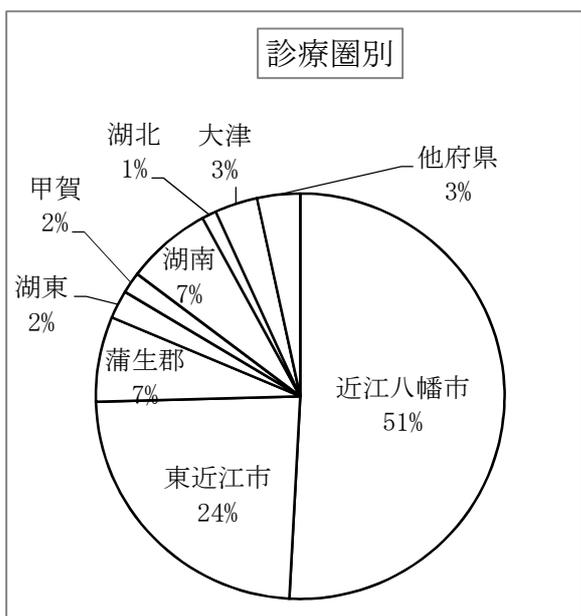
ホスピス 年間退院数…177名

新生物の種類

疾患名	ICD-10	人数	全体率
肺癌	C34	43	24.29
胃癌	C16	22	12.43
膵癌	C25	15	8.47
結腸癌	C18	12	6.78
肝(肝内胆管)癌	C22	11	6.21
直腸癌	C20	8	4.52
乳癌	C50	7	3.95
前立腺癌	C61	5	2.82
膀胱癌	C67	4	2.26
悪性リンパ腫	C85	4	2.26
食道癌	C15	3	1.69
胆のう癌	C23	3	1.69
卵巣癌	C56	3	1.69
口腔癌	C06	2	1.13
胆道癌	C24	2	1.13
腎癌	C64	2	1.13
尿管癌	C66	2	1.13
神経膠芽腫	C71	2	1.13
転移性肺癌	C78	2	1.13
原発不明癌	C80	2	1.13
リンパ性白血病	C91	2	1.13
歯肉癌	C03	1	0.56
顎下腺癌	C08	1	0.56
中咽頭癌	C10	1	0.56
子宮体癌	C54	1	0.56
甲状腺癌	C73	1	0.56

診療圏別・学区別

	人数
全体	177
近江八幡市	90
安土学区	15
老蘇学区	3
岡山学区	8
金田学区	4
北里学区	9
桐原学区	10
島学区	3
八幡学区	23
馬渚学区	5
武佐学区	10
東近江市	42
蒲生郡	12
湖東	4
彦根市	4
甲賀	3
湖南市	3
湖南	12
草津市	3
栗東市	3
野洲市	3
守山市	3
湖北	2
長浜市	1
米原市	1
大津	6
他府県	6



● 2014年度(H26年度)

診察圏別 診療科別 退院患者数

		全科	内科	消化器科	循環器科	呼吸器科	外科	神経内科	総合診療科	緩和ケア	リハビリ
東近江	近江八幡市	773	15	45	11	104	289	95	38	90	86
	蒲生郡	38		1		3	10	6	1	12	5
	東近江市	125	1	7		14	35	11	3	41	13
湖南	大津市	10		1			2		1	6	
	草津市	0									
	栗東市	0									
	守山市	0									
	野洲市	0									
甲賀	湖南市	27		1		3	4	2		12	5
	甲賀市	5		1			1			3	
湖東	彦根市	20				2	6	6		1	5
	愛知郡	8		1		1	1	1		3	1
	犬上郡	2					1				1
湖北	長浜市	3					1			2	
	米原市	0									
	坂田郡	0									
	東浅井郡	0									
	伊香郡	0									
他府県		10				1	1		2	6	
不明		0									
総数		1021	16	57	11	128	351	121	45	176	116

● 2014年度(H26年度)

診察圏別 診療科別 退院患者数 (近江八幡市・蒲生郡)

		全科	内科	消化器科	循環器科	呼吸器科	外科	神経内科	総合診療科	緩和ケア	リハビリ
近江八幡市	八幡学区	212	8	9	6	12	89	22	15	23	28
	島学区	43	1	3	1	9	8	9	4	3	5
	岡山学区	66	1	5	1	13	18	13	3	8	4
	金田学区	106		8		18	42	13	5	4	16
	桐原学区	100	2	6	1	16	31	15	4	9	16
	馬淵学区	34	1		1	4	13	3	2	5	5
	北里学区	44	1	1		5	18	3	1	10	5
	武佐学区	57	1	3	1	9	26	7		9	1
	安土学区	106		10		17	43	10	4	16	6
	老蘇学区	5				1	1			3	
近江八幡市 総数		773	15	45	11	104	289	95	38	90	86
蒲生郡	竜王町	31		1		1	7	6	1	10	5
	日野町	7				2	3			2	
	蒲生町	0									
蒲生郡総数		38	0	1	0	3	10	6	1	12	5
合計		811	15	46	11	107	299	101	39	102	91

● 2014年度（H26年度）
疾病別 年齢層別 性別 退院患者数

I C D大分類		合計	0～9	10～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～	平均年齢	
I	感染症及び寄生虫症	男	8	0	0	0	0	1	1	1	1	0	2	2	0	70.9
		女	11	0	0	0	0	2	0	1	1	1	2	2	3	77.2
		合計	19	0	0	0	0	3	1	2	2	1	3	4	3	
II	新生物	男	126	0	0	0	0	1	9	24	27	19	17	20	9	75.3
		女	107	0	0	0	2	2	6	13	11	12	22	16	23	78.1
		合計	233	0	0	0	2	3	15	37	38	31	39	36	32	
III	血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害	男	6	0	0	0	0	0	0	0	0	3	1	2	0	80.8
		女	5	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	1	1	79.2
		合計	11	0	0	0	0	0	0	1	0	5	1	3	1	
IV	内分泌・栄養及び 代謝疾患	男	30	0	0	0	0	2	0	6	1	7	5	8	1	75.9
		女	16	0	1	0	0	1	0	1	2	1	1	5	4	76.9
		合計	46	0	1	0	0	3	0	7	3	8	6	13	5	
V	精神及び行動の障害	男	4	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2	0	0	79.5
		女	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	2	88.5
		合計	8	0	0	0	0	0	0	0	0	2	3	1	2	
VI	神経系の疾患	男	14	0	0	0	0	0	1	1	6	2	4	0	0	73.5
		女	19	0	0	0	0	0	0	1	2	6	2	3	5	82.5
		合計	33	0	0	0	0	0	1	2	8	8	6	3	5	
VII	眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
VIII	耳及び乳腺突起の疾患	男	2	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	75.5
		女	2	0	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	56.0
		合計	4	0	0	0	0	0	2	1	0	0	0	1	0	
IX	循環器系の疾患	男	93	0	0	1	2	6	7	21	14	11	16	11	4	71.5
		女	101	0	0	0	2	1	5	9	10	12	8	27	27	81.1
		合計	194	0	0	1	4	7	12	30	24	23	24	38	31	
X	呼吸器系の疾患	男	68	0	0	0	0	3	0	7	5	10	21	17	5	79.3
		女	56	0	0	0	0	0	1	4	5	9	11	10	16	83.4
		合計	124	0	0	0	0	3	1	11	10	19	32	27	21	
X I	消化器系の疾患	男	85	0	0	1	0	3	14	14	16	11	12	10	4	70.7
		女	58	0	0	0	2	9	2	6	7	5	8	5	14	73.2
		合計	143	0	0	1	2	12	16	20	23	16	20	15	18	
X II	皮膚及び皮下組織の疾 患	男	10	0	0	0	0	0	0	4	1	0	2	2	1	75.1
		女	8	0	0	0	1	0	0	1	1	3	0	1	1	73.0
		合計	18	0	0	0	1	0	0	5	2	3	2	3	2	
X III	筋骨格系及び結合組織 の疾患	男	8	0	0	0	0	0	3	1	0	0	1	3	0	72.9
		女	17	0	0	0	0	0	0	1	1	4	5	4	2	81.6
		合計	25	0	0	0	0	0	3	2	1	4	6	7	2	
X IV	腎尿路器系の疾患	男	5	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	2	1	79.2
		女	8	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	3	3	86.3
		合計	13	0	0	0	0	1	0	0	1	0	2	5	4	
X V	妊娠、分娩及び産褥	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X VI	周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X VII	先天奇形、変形及び染 色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X VIII	症状、徴候及び異常臨 床所見・異常検査所見 で他に分類されないも の	男	11	0	0	0	0	0	1	2	2	3	1	2	81.5	
		女	15	0	0	0	0	0	1	1	3	0	0	2	8	84.3
		合計	26	0	0	0	0	0	1	2	5	2	3	3	10	
X IX	損傷、中毒及びその他 の外因の影響	男	35	0	0	0	0	1	0	2	4	8	5	9	6	80.7
		女	89	0	0	0	0	2	1	6	5	11	27	17	20	82.0
		合計	124	0	0	0	0	3	1	8	9	19	32	26	26	
X X	傷病及び死亡の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
X XI	健康状態に影響を及ぼ す要因及び保健サービ スの利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
総 数		1021	0	1	2	9	35	53	128	126	141	179	185	162		

● 2014年度（H26年度）
疾病別 在院期間別 性別 退院患者数

I C D大分類		合計	1～7	8～14	15～21	22～30	31～60	61～90	3月～6月	6月～1年	1年～2年	2年～	3年～	平均 在院 日数
I	感染症及び寄生虫症	男	8	0	1	2	2	2	0	1	0	0	0	37.3
		女	11	2	2	1	1	2	1	2	0	0	0	44.3
		合計	19	2	3	3	3	4	1	3	0	0	0	
II	新生物	男	126	37	25	17	14	26	4	2	1	0	0	24.4
		女	107	18	21	11	22	22	6	3	3	1	0	36.7
		合計	233	55	46	28	36	48	10	5	4	1	0	
III	血液及び造血器の疾患 並びに免疫機構の障害	男	6	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.0
		女	5	0	0	2	0	1	1	0	1	0	0	86.8
		合計	11	6	0	2	0	1	1	0	1	0	0	
IV	内分泌・栄養及び 代謝疾患	男	30	4	10	8	4	1	2	1	0	0	0	20.8
		女	16	1	5	2	3	2	2	1	0	0	0	29.6
		合計	46	5	15	10	7	3	4	2	0	0	0	
V	精神及び行動の障害	男	4	1	0	0	0	1	0	0	1	0	0	370.0
		女	4	1	0	0	1	1	0	0	1	0	0	69.0
		合計	8	2	0	0	1	2	0	0	2	0	0	1
VI	神経系の疾患	男	14	2	2	2	0	1	1	2	0	2	1	284.5
		女	19	3	3	1	3	6	1	0	1	0	0	97.0
		合計	33	5	5	3	3	7	2	2	1	2	1	2
VII	眼及び付属器の疾患	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
VIII	耳及び乳様突起の疾患	男	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	6.0
		女	2	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3.5
		合計	4	3	1	0	0	0	0	0	0	0	0	
IX	循環器系の疾患	男	93	29	12	5	6	12	7	21	1	0	0	48.3
		女	101	24	4	8	6	11	6	32	5	5	0	97.4
		合計	194	53	16	13	12	23	13	53	6	5	0	
X	呼吸器系の疾患	男	68	9	22	13	10	6	4	2	0	1	1	40.3
		女	56	8	10	6	9	9	8	2	2	2	0	61.2
		合計	124	17	32	19	19	15	12	4	2	3	1	0
X	消化器系の疾患	男	85	34	26	13	6	2	2	2	0	0	0	13.9
		女	58	23	16	7	5	4	1	1	0	0	1	27.9
		合計	143	57	42	20	11	6	3	3	0	0	1	0
X	皮膚及び皮下組織 の疾患	男	10	3	2	2	1	0	1	1	0	0	0	26.1
		女	8	2	2	0	1	2	0	0	0	1	0	105.1
		合計	18	5	4	2	2	2	1	1	0	1	0	0
X	筋骨格系及び結合 組織の疾患	男	8	2	1	1	2	2	0	0	0	0	0	21.9
		女	17	0	1	3	3	6	3	1	0	0	0	46.5
		合計	25	2	2	4	5	8	3	1	0	0	0	0
X	腎尿毒性器系の疾患	男	5	2	2	0	0	0	0	0	1	0	0	60.0
		女	8	2	1	1	1	1	2	0	0	0	0	28.4
		合計	13	4	3	1	1	1	2	0	1	0	0	0
X	妊娠、分娩及び産褥	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
X	周産期に発生した病態	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
X	先天奇形、変形及び 染色体異常	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
X	症状、徴候及び異常臨床 所見・異常検査所見で他 に分類されないもの	男	11	3	0	3	0	3	0	1	0	1	0	77.9
		女	15	3	3	3	1	1	0	1	2	0	1	108.1
		合計	26	6	3	6	1	4	0	2	2	1	1	0
X	損傷、中毒及びその他の 外因の影響	男	35	3	2	1	1	8	14	6	0	0	0	68.0
		女	89	2	2	6	6	25	41	7	0	0	0	62.9
		合計	124	5	4	7	7	33	55	13	0	0	0	0
X	傷病及び死亡の外因	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
X	健康状態に影響を及ぼす 要因及び保健サービスの 利用	男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		女	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0
		合計	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
総 数			1021	227	176	118	108	157	107	89	19	13	4	3

礼拝堂

1 礼拝堂

- ① 始業礼拝は徐々に参加を各部署で促してくれている中、参加することへの意識が浸透しつつある。案内を毎月各部署へ配布。病院の基本理念確認の時であり、その意味を共有していくことの理解が深まりつつある。
- ② 病床訪問については患者さんとの関わりを継続的に大切にしてきた。
- ③ ミュージックタイムは毎月実施できた。演奏者も定着。参加者のレパトリーも広がりつつある。

2 全体まとめ

- ① 追悼会の参加者は過去の実績から毎回平均して招待者の 10～20%の出席率。委員会主催の行事ではあるが、病院行事として明確に位置づけし、広く周知し病棟スタッフの参加を促す。医師に参加の意図理解を得られないことが多いのが残念。
- ② 新人オリエンテーションを担当。フォローアップが課題。病院全体としての育成、教育プランについてシステム化する必要を感じている。入職時期が年間を通してあり、職制も多様なため、一体感を目指すことの難しさは増している。

3 総括

- ① 着任7年目、追悼会、クリスマスなど安定した運営となってきた。なお、内容について適宜見直し、委員会活動として取り組むことが課題。
- ② 理念に基づいた組織作りのため、協力しつつ浸透を図りたい。結果、評価の難しい「理念」ではあるが、利用者、患者の皆さんが「キリスト教の病院である」ことの期待に応えていくように内面に響く言葉を発したい。
- ③ 日曜礼拝の参加者安定。直接日々の業務との関連は少ないが日曜礼拝の出席者が安定している。病院チャプレンとしての役割を担っているが「里」にある教会、牧師としての役割と自覚。単に病院業務に止まらず「里」における役割、機能を今後検討し評価を得たい。
- ④ 基本理念に基づいた経営なのか見極める意識を高め、求められるならば病院経営へ適切な意見できるよう意識し神から託された役割を果たすことを訴えてく。

委員会報告

2014 年度報告（平成 26 年度） 業務連絡・業務改善委員会				
人員構成				
委員長	周防 正史		副委員長	澤谷 久枝
委員構成	院長 事務長 看護部長 診療技術部長 在宅部門長 事務部長 事務次長 看護部（5名） 検査科（1名） 放射線科（1名） 栄養科（1名） リハビリ科（1名） 医事課（1名） 地域連携課（1名） 診療情報管理室（1名） システム室（1名） 礼拝堂（1名） 企画渉外課（1名）			
活動内容 （成果）	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">業務連絡</div> <ul style="list-style-type: none"> ・各部署、委員会からの連絡事項、行事などの周知と確認。 ・行事、委員会等の調整及び具体的実施の確認。 ・節電、節水など省エネに対する取り組みと周知。 ・駐車場問題。 ・1病棟東館使用にあたっての夜勤体制(応援)。 ・1病棟改築に伴い、各部屋の使用目的の周知。 ・ヴォーリズ・メモリアル in 近江八幡へのボランティアの参加要請。 ・病院車両使用規程の徹底。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;">業務改善</div> <ul style="list-style-type: none"> ・施設周囲の環境整備の実施の継続。 ・駐車マナーの徹底。 ・退院アンケート・“みなさまの声”に対する改善、回答の実行。 ・監査委員会の立ち上げ。 ・追悼会の運営の見直し。 ・印鑑管理の取り決め。 ・ステップアップシートの見直し。 			
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・決定事項の周知と継続。 ・改善へ向けたP D C Aサイクルの徹底。 ・退院アンケート内容の検討。（患者満足度調査と改善） 医療の質向上、環境、設備、職員接遇の向上に繋げる。 ・継続的改善事項の評価。 			

2014 年度報告（平成 26 年度） 給与・規約プロジェクト委員会

人員構成

委員長	澤谷 久枝	副委員長	
委員構成	事務部（2 名） 診療技術部長 看護部長 在宅部門長 事務次長 職員会：3 名（会長・副会長 2 名） 医師（1 名） 管理課（1 名） 看護師（2 名） 看護助手（1 名） リハビリテーション科（1 名） ヘルパーステーション（1 名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・給与・規約プロジェクト委員会メンバー16 名で活動した。 内容は下記に示すとおり。 1. 就業規則の見直し <ul style="list-style-type: none"> ①16 条 4 項 休職期間の延長と条件を 4 項目追加。 ②43 条 8 項 忌服休暇 <ul style="list-style-type: none"> ・「申請してから連続して」という項目が追加。 ・配偶者の喪主を務めた場合の休暇が 3 日から 5 日になる。 ③69 条 4 項 健康診断を受診しない場合、懲戒処分の対象になる。 ④給与規定 6 条 「退職時の最後の給料については、現金で支払うことがある」という文言の追加。 ⑤旅費規定 6 条 費用の上限は 10 万円が限度である。 ⑥自家用車業務上使用取扱規程について 通常に通勤手当に合わせ、1km あたりの単価を 36 円から 20 円に変更。 ⑦試用期間中は賞与の算定に加えないということについて。 試用期間 3 ヶ月だった場合の例： 4 月入職者の場合 6 月賞与→なし、12 月賞与→7/1 から算定。 2. 基本給、暫定調整給の見直し <ul style="list-style-type: none"> 12 月 退職金制度設計 労使の同意書提出 1 月 厚生労働省届出 4 月 新給与体系開始 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・平成 26 年 1 月開始した確定拠出年金制度の評価。 ・人事制度の完成度を上げる。 公平性、納得性を得るための評価者、非評価者への教育。 ・マイナンバー制度の理解と就業規則への展開。 		

2014 年度報告（平成 26 年度） 自衛消防隊			
人員構成			
委員長	周防 正史 (自衛消防隊隊長)	副委員長	櫻井 卓哉 (防火管理者)
委員構成	地区隊長（1名） 防火管理者（1名） 副防火管理者（1名） 事務部（2名） 診療技術部（1名） 看護部（6名） 事務長 里統括防火管理者（1名）		
活動内容 (成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・避難・救出・消化器取扱い訓練 2回開催 (平成 26 年 11 月 11 日、平成 27 年 3 月 24 日) ・初期消火競技会への参加・・・屋内消火栓操法・消火器操法部門 ・消防計画書の改定 ・自衛消防隊組織表・非常連絡網の見直しと作成 ・自衛消防隊の各班の役割の明確化 ・各部署火元責任者の確認と一覧の見直しと作成 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・訓練を通じて館内放送の仕組みの周知と理解（放送システムの不具合） ・災害時の対処法に対し不備・問題点を抽出し、現在の防災マニュアルの改訂が必要 ・避難用具、備品関係等の事前準備 ・高齢者の入院が多い中、夜間・休日の応援体制の周知 ・防災、各班（庶務・防災・救護）の役割の徹底と教育 ・里全体での防災訓練（5年前実施） 		

2014 年度報告（平成 26 年度）		安全衛生委員会	
人員構成			
委員長	古武 まゆみ	副委員長	岡田 幸子
委員構成	安全衛生管理者（3 名） 産業医（1 名） 看護部長 病棟看護師長（1 名） 外来師長 管理課（1 名） 医事課（1 名） 職員会会長		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内巡視の実施を行い、職場衛生管理に努めた。 ・ 職員健診の実施（夜勤者、放射線に係わる職員は年 2 回実施）。 ・ 院内感染防止のため、インフルエンザワクチン接種・HB ワクチン接種を実施した。 ・ メンタルヘルスの講演会を管理職対象に実施した。 ・ メンタルヘルスチェックシステムの業務が安全衛生委員会に委託され、メンタルヘルスチェックの推進を実施した。（前年 25.7%に対して 68.8%。非常勤医師を抜くと 77%の実施率となった。） ・ 感染防止、針刺し防止のためポスターを作成し院内に掲示した。 H25 年度針刺事故発生は 0 件であったが、今年度は 12 月までで 6 件。 針刺の原因対策を含めて、ポスターを作成、掲示した。 ・ 院内喫煙がまだ認められるので、掲示をして注意を喚起する。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 来年度は、「ストレスチェック」システムの実施率を更に上げる。 ・ 安全衛生委員会の取り組みである「職員健診、職業感染防止対策、精神的サポートが適切に行われている」これを継続していく。 ・ 非常勤医師の健診結果が把握されているか確認する。 ・ 外部産業医の支援により、ならし勤務がスムーズにできるように外部産業医を探す。 		

2014 年度報告（平成 26 年度） 栄養管理委員会			
人員構成			
委員長	徳岡 貴美	副委員長	久村 良美
委員構成	医師（1名） 管理栄養士（1名） 調理師（1名） 看護師（2名） 言語聴覚士（1名） 介護福祉士（3名） 医事課（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行事食について（評価・見直し） ・ 嚥下食について（評価・見直し） ・ 適切な経腸栄養剤の選択・使用方法について検討 ・ 病棟毎の食事に対する細やかな対応の実施 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ システムトラブルの解消 ・ 嚥下食の質の向上 ・ N S T加算の取得 ・ 栄養指導件数増加への対策検討 ・ 特別食加算の増加への対策検討 		

2014 年度報告（平成 26 年度）		広報委員会	
人員構成			
委員長	大南 真人	副委員長	櫻井 卓哉
委員構成	企画渉外課（1名） 事務次長 礼拝堂（1名） 看護助手（1名） 在宅（1名） リハビリテーション科（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページの充実 毎月継続的な更新 ・ 毎月の病院広報誌“ヴォーリズだより”の継続発刊 原稿依頼・編集・校正・発刊 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ ホームページ管理体制の確立 情報発信への仕組み作り 担当と役割の明文化 ・ 広報誌の充実 ニーズに沿った情報の発信 		

2014 年度報告（平成 26 年度）		接遇委員会	
人員構成			
委員長	村松 淳子	副委員長	大谷 喜洋
委員構成	医師（1名） 看護師（2名） 介護福祉士（1名） 事務（1名） 薬局（1名） 老健センター（3名） 看護助手（1名） 訪問介護（1名） ケアハウス（1名）		
活動内容 (成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 職員の接遇に関する意識、質の向上に向けての取り組みを行う。 1、研修会の実施 <ul style="list-style-type: none"> * ヴォーリズの里全体の研修 <ul style="list-style-type: none"> ・ 研修実施日、3月9日・3月10日・3月16日・3月20日 時間、17:30～19:00 の3回、12:30～14:00 の1回実施し、病院在宅職員 248 名、老健職員 43 名の合計 291 名の参加があった。 不参加者病院在宅 43 名、老健 11 名でした。 2、各職場での接遇の意識、質の向上 <ul style="list-style-type: none"> ①委員会での「スマイルリーダー」の評価。 <ul style="list-style-type: none"> 7月8月と実施したが、委員が部署外でだと評価しにくいこともあり中止する。 ②毎月の“接遇標語”の設置、意識付けを行う。 <ul style="list-style-type: none"> 委員会メンバーはその確認をしていく。 ③マニュアルの作成、見直し 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 接遇研修の組み立て。 <ul style="list-style-type: none"> テーマ・講師・時期の検討。 ・ 接遇標語の実施内容の検討。 ・ 勉強会の実施、意識向上を行えるようにしていく。 ・ 里全体のメンバーなので、里としての接遇の在り方の検討を行う。 		

2014 年度報告（平成 25 年度） 臨床検査適正化委員会			
人員構成			
委員長	鯉江 賢二	副委員長	
委員構成	医師（1名） 薬剤師（1名） 看護師（1名） 臨床検査技師（2名） 医事課（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 精度管理 <ul style="list-style-type: none"> 外部精度管理：平成 26 年度日本医師会精度管理事業の結果報告。 315 満点中、313 点で高評価。 滋賀県医師会・滋賀県臨床検査技師会精度管理事業の結果は、生化学部門・輸血部門・血清部門・一般部門・すべて A 評価、血液部門は B 評価。 内部精度管理：検査センターメディックから問題なしの評価。 ・ その他連絡事項と業務改善について <ul style="list-style-type: none"> ★心電図と肺機能検査結果はペーパーレスになります。 結果閲覧は電子カルテの患者カルテ画面で、どちらも 心電図 アイコンをクリックして下さい。肺機能検査報告書については患者様用に 1 部発行しています。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 昨年度の課題は簡易血糖測定用穿刺針で、より使いやすい器具を検討です。今年度は新しい器具を採用しました。ファインタッチディスポ（株）テルモです。又、他病院（近江八幡総合医療センター等）でジェントレット針を使用している患者様には同じ針を用意しました。 ・ 細菌検査は依頼箋による依頼と請求を行っており、昨年度より検査依頼が増えている。他の血液検査と同じ様に電子カルテ化を。 		

2014 年度報告（平成 26 年度） 医療安全管理委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	小西 智子
委員構成	院長 事務長 看護部長 診療技術部長 ME サービス担当（1 名） リスクマネージメント部会長（1 名） 医療安全推進者（2 名）		
活動内容 （成果）	<ol style="list-style-type: none"> 1. 月 1 回の委員会活動 インシデント報告分析検討、インシデントの中でも重大であると思われるものは部会長が管理委員会に報告。 部会長から報告を受けたインシデントの分析検討・改善策の提案。 2. 年間教育計画に沿っての研修の企画・実行 3. 医療安全ニュースレターの発行 4. 医療安全情報の院内配信 5. 一般病棟のアクシデントカンファレンスへの参加、事後対応のフィードバック 6. 看護部以外の部署でのインシデント、アクシデントレポート提出の励行。リスクマネージメント部会参加奨励。 7. アクシデントレポートの分析、改善策の検討、各部署へのサポート 8. 臨時医療安全委員会の招集 9. インシデント管理システム『SafeMaster』の導入済み 10. 委員会規定・医療安全管理指針のマニュアル見直し 11. 医療安全に関する職員教育。研修会開催 新採用対象・全職員対象 2 回開催 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・医療安全確保に向けた院内ラウンドチェック表の活用。 ・リスクマネージャーの指導力アップと継続した教育。 ・危険予知トレーニング（KYT）を重ね、根本原因分析（RCA）を訓練する。 ・職員の意識向上に向けた研修、教育の実施。 ・インシデント管理システム『SafeMaster』の内容の見直し。 		

2014 年度報告（平成 26 年度） リスクマネジメント委員会			
人員構成			
委員長	加藤 和幸	副委員長	
委員構成	医局（2名） 薬局（1名） 栄養、給食科（1名） 看護師（5名） 放射線科（1名） 医事課（1名） 地域連携課（1名） 検査科（1名） リハビリテーション科（1名） 管理課（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 毎月のインシデント報告と集計 H25 年度のインシデント集計、報告会開催（2回） ・ 重要事例の検討と対策 ・ 医療安全委員会との連携 ・ リスクマネジメント研修会の開催 ・ セーフマスター導入による説明会 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ インシデントレポートの提出の周知。 レポートの多い部署とゼロ件の部署があり、インシデントレポートに対する温度差を解消する。 継続。 ・ リスクマネージャに対する教育。 カンファレンスの持ち方、内容、分析の仕方、職員に対する指導などレベルアップが必要。 セーフマスターの入力方法の周知。 		

2014 年度報告（平成 26 年度）		教育委員会	
人員構成			
委員長	鎌田 華子	副委員長	岡田 幸子
委員構成	看護部（2名） 診療技術部（1名） 事務部（2名） 在宅部門（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・職員満足度調査：9月実施 調査結果 off-JT に記録し配布 チーム力向上のための意見交換会全職員対象に開催 →11月26日～12月9日 ・他部署体験（新入職者、途中採用者対象） 23/27名参加 8月に各部署に調整し実施 ・救命救急講習会 →11月19日開催 14名参加 ・シニア体験 12月19日実施 9名参加 ・院内研修（off-JT） 毎月発行 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・職員満足度調査の内容・どこの部署で行っていくかを検討。 ・他部署体験時、受け入れ体制が整わない部署があり、方法・内容を検討。 ・シニア体験を継続し、職員全体の質の向上を図る。 ・院外研修（OFF-JT）の継続。 ・救命救急講習会の継続し、緊急時に対応可能な知識・技術の向上を図る。 		

2014 年度報告（平成 26 年度） 全人的ケア推進委員会			
人員構成			
委員長	谷川 弘子	副委員長	安部 勉
委員構成	医師（2名） 看護師（5名） 管理栄養士（1名） 薬剤師（1名） ケアワーカー（2名） 放射線技師（1名） チャプレン（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月 1 回の定例委員会。 本年度のテーマ「つながるということからケアを見つめよう」 ・ 事例検討会 年 7 回実施。12 部署の検討事例を行った。いろんな視点（コメディカルが集結）で患者の全人的苦痛についての検討事例出来、学習できた。 ・ がんセミナー テーマ「つながる」 関西学院大学、坂口幸弘先生による「悲しみと愛（かな）しみ」 京都産業大学、米虫憩子先生による「これからのとき」 当院チャプレン「虹の架け橋の向こうに」という題名で、グリーフケアを中心に悲嘆についての講演であった。1 回目、2 回目は有名な先生でもあり、スタッフの参加もあった。最終ではグループワークを盛り込んだ。誰しものが大切な家族への思いや家族には語れぬ思いを表出出来る場となったことで、好評を得ることが出来た。 ・ 追悼会（5/24：8 組 19 名、10/19：6 組 10 名参加） 徐々に参加人数は減少している。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事例検討会 意識付けできるような案内、声掛けが必要。 良い内容であったが、出席者以外にも伝達できるような方法を検討していく必要がある。 病院全体の勉強会が多いため、教育委員とコラボした勉強会を設定していく方法も検討必要。管理職も自分の各部署がどのようなケアを行っているかを知る機会となるため、なるべく参加を促す。 ・ がんセミナー テーマを絞って講演は依頼する。グループワークは最終に入れる。 3 月は左義長祭りの日は必ず外す。（毎年反省会で出ているが見直されていない。） 		

	<ul style="list-style-type: none">・ 追悼会 年々参加者減少している。病院としての追悼会の目的・意義を明確にするべきである。誰のための追悼会なのか。という視点で全体の内容を見直すべきである。 <p>全体を通して</p> <p>がんセミナーと追悼会はリーダーが1人で進めているので、誰もが出来るようにマニュアル（手順）を作成していく必要がある。 (毎年反省会ででていたが、実行されていない。)</p> <p>委員会で決定した事項で運営していく。</p>
--	--

2014 年度報告（平成 26 年度）		褥瘡対策委員会	
人員構成			
委員長	平野 節	副委員長	
委員構成	医師（1名） 看護師（4名） 管理栄養士（1名） 薬剤師（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 月 1 回の定例委員会。 ・ 適宜褥瘡回診を実施。 ・ 褥瘡診療計画書を集計して医事課に提供。 		
課 題	<p>・ 褥瘡はほとんどが持ち込み例であったが、院内発生も見られる。入院患者に高齢者が多く、高リスクだからこそ褥瘡が出来てしまうのだが、予防について方法がまちまちなのが現状。記録も十分とはいえない。</p> <p>開放湿潤療法（いわゆるラップ療法）については十分浸透したと思われるが、踵の除圧／減圧法をはじめ、予防のレベルアップも図りたい。エアマットについては、ほぼ充足している。</p>		

2014 年度報告（平成 26 年度）		ボランティア委員会	
人員構成			
委員長	岡田 幸子	副委員長	古武 まゆみ・堀井 由高
委員構成	看護師（4名） 看護助手（2名） 在宅部（1名） 医事課（1名） 管理課（1名） 老健センター（2名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第 37 期、第 38 期ボランティア募集 募集への作業確認と役割分担 オリエンテーションの実施 ・ ボランティアの健康管理と活動支援 健診、インフルエンザ予防接種の案内と実施 ボランティア間、病院、老健との交流会 活動内容、活動時間などの管理 ・ 活動の支援と協力体制 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 委員会体制の見直し 業務分掌を明確にし、委員会活動を充実させる。 各委員メンバーが担当制とし、ボランティアメンバーと顔の見える 関係構築を図った。 ・ ボランティアの募集 ボランティア募集し新規参加者 4 名。 ・ ボランティアの集い（6/7）、ニュース発行などボランティア主体で活 動した。 		

2014 年度報告（平成 26 年度） 院内感染防止対策委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	平野 節
委員構成	院内感染防止対策委員：院長 感染管理者（医師） 看護部長 事務長 薬局長 検査技師長 事務部長 院内感染防止対策チーム：各病棟（4 名）・外来看護師 リハビリ科 栄養科 地域連携課 医事課 管理課 代表各 1 名		
活動内容 (成果)	<ul style="list-style-type: none"> ・ 滋賀医大附属病院、東近江総合医療センターと院内感染防止カンファレンスに 4 回参加し、当院の状況報告と意見交換を行った。 ・ ICT チームの院内ラウンドを継続し、指摘事項の改善を求めた。 ・ 滋賀県感染症情報センター週報を毎週院内に配信し、情報を提供した。 ・ 委員会では臨床検査科より「感染レポート」報告により耐性菌発生状況の報告。JANIS 報告も行った。 ・ 薬局から院内抗生物質使用量の報告。 ・ 病棟別アルコール手指消毒薬の消費数の報告。 ・ 院内感染防止研修会の開催「HIV について正しい知識を学ぼう」「新型インフルエンザ、エボラ出血熱の感染防御」を実施した。 ・ 自動噴霧式のアルコール手指消毒剤を必要部署に配置し消費量を委員会で報告すると共に適正な配置箇所を検討した。 ・ 看護部職員に手指消毒剤ポシェットを導入した。 ・ ナースコール板に感染症患者を色分けで明記する事とした。 ・ 職員の風疹抗体の測定、及び抗体価 8 未満の職員には風疹・麻疹風疹ワクチン接種の推奨を行った。 ・ 「病院感染防止対策マニュアル」の改訂を実施した。 ・ 滋賀県感染制御ネットワークに参画し、滋賀県下の耐性菌発生状況を共有した。 ・ 病棟に胃瘻注入ボトルの乾燥用乾燥器を導入した。 		
課題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 機能評価審査で指摘された研修会、講演会の参加率を 100%とする事、アンチバイオグラム作成、ICD・ICN の配置が課題である。 		

2014 年度報告（平成 26 年度） 診療情報管理委員会			
人員構成			
委員長	周防 正史	副委員長	加賀爪 優子
委員構成	医局（2 名） 事務部（1 名） 看護部（5 名） 診療情報管理士（1 名） 薬局（1 名） 医事課（1 名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 診療記録監査について 診療情報管理士の増員で日常業務での診療記録精査を行う。 → 講評をつけて 1～2 ケ月単位で報告を医師に行う。 ・ 外来カルテ廃棄について 平成 19 年～20 年の廃棄が部長会にて決定され医事課にて廃棄。 ・ DPC（データ提出加算）について 6 月データ提出で加算が決定され、以後 3 か月間のデータおよびデータチェック後の再提出を行っている。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 院内カルテ監査 2014 年度はカルテ監査をしていないので、2015 年度は必ず行いたいと考えます。 ・ 電子カルテ内カルテ入力 3 年目を迎えカルテ入力の見直しを図りたい。 診療支援室職員の協力を得ながら、入力時間短縮、わかりやすい操作のあり方を工夫したい。 ・ DPC（データ提出加算） 病院内連携を図っていきたい。 		

2014 年度報告（平成 26 年度）		病院機能評価委員会	
人員構成			
委員長	古武 まゆみ	副委員長	堀井 由高
委員構成	院長補佐、事務長、看護部長、医師（1名）、看護部（5名） 診療技術部（2名）、事務部（3名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本医療機能評価機構認定病院受審継続更新のため、H25 年 9 月受審時での各部署指摘事項改善に取組み、進行状況を確認した。 ・ 各種委員会規程の改訂を依頼し、改訂分をフォルダーに纏めた。 ・ 各科業務分掌・業務規程の収集、各部とも収集済み。 ・ 禁煙への取り組みとして、自家用車内喫煙も不可とし、敷地内禁煙を徹底する。 ・ 外来部門会にて、「患者満足度調査アンケート」を実施し、外来における患者満足度・不満事項を収集し、改善できるように取り組む。 ・ 医療機能評価機構により、H27 年 4 月から 3erG:Ver1.1 にバージョンアップとなり、付加機能緩和ケアが無くなり、H30 年度病院本体受審は、3erG:Ver1.1 で受審する。同時に、2 領域は緩和ケア病院の 2 領域を合わせて受審することで、緩和ケアは更新できる。 ・ H27 年に書類審査があり、継続して指摘事項の改善を実施し、改善の記録を纏める。 ・ 3erG:Ver1.1 では新項目が増えているので、研究し、取り組む。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 期日までに課題が終了、改善ができない。 ・ H25 年受審時の指摘事項を継続改善する。 ・ 敷地内禁煙の徹底。 ・ 3erG:Ver1.1 での新項目の研究と取り組み。 ・ H27 年 12 月の書類審査に備える。 		

2014 年度報告（平成 26 年度） 個人情報保護対策委員会			
人員構成			
委員長	櫻井 卓哉	副委員長	加賀爪 優子
委員構成	医師（1名） 事務長 看護部長 事務次長 在宅部（1名） 放射線科（1名） 医事課（1名） 地域連携課（1名） 診療情報管理室（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報保護に関する研修会 「個人情報保護に関する研修 part II」 「コンプライアンスを遂行するために・・・」 講師 藪本恭明氏 弁護士&医師 平成 26 年 9 月 9 日・12 日・19 日実施 ・ 委託業者の誓約書の見直しと管理 ・ 個人情報に関する「誓約書」の見直し ・ 新規入職者への教育と誓約書の管理 ・ 電子カルテにおける各部署のマニュアル改定 ・ IT 化の推進に伴い、各部署の PC 等のセキュリティ強化を IT 情報管理委員会にゆだね、各部署の教育目的としたコアリーダーの養成に力を入れた。（コアリーダーの増員・勉強会の開催） ・ 個人情報に関する「紛失届」の周知徹底を行い、追跡調査を毎月の委員会で報告した。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ IT 情報管理委員会と個人情報保護対策委員会との連携の構築継続。 ・ 個人情報保護に関する継続した教育と周知。 ・ ガイドライン改正に基づき、各部署での個人情報保護規定に関する情報の集約とマニュアルの見直し。 ・ 個人情報賠償保険の見直し。 		

2014 年度報告（平成 26 年度） クリニカルパス委員会			
人員構成			
委員長	新庄 安宏	副委員長	
委員構成	医師（1名） 看護師（6名） 薬剤師（1名） 栄養士（1名） 理学療法士（1名） MSW（1名） 医事課（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 4月 運用規定見直し。 ・ 8月以降福永医師が長期休養されたためパスの修正できず。 ・ 9月化学療法をパスで運用開始。 ・ 適宜、細かいパス内容を修正。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ パスを作成修正できる人間がおらず、やってみようという人間も皆無だった。 ・ 各委員から改善点が全く出されないため、次年度から委員の大幅削減を要望。 ・ 平野医師も退職予定のため新規パスの作成は未定。 		

2014 年度報告（平成 26 年度） ワークライフバランス委員会			
人員構成			
委員長	岡田 幸子	副委員長	櫻井 卓哉
委員構成	医師（1名）看護師（9名）事務職（2名）薬剤師（1名）調理師（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日本看護協会推進事業 WLB 推進事業への参加。 ・ 6/1～3 週間インターネットでのインデックス調査実施(看護師対象)。 ・ 9/17・18 ワークショップへ参加。 <ul style="list-style-type: none"> →インデックス調査（回収率75%）の分析、今後の取り組み計画の立案 2年目のアクションプランを立案。 ①WLB 支援に関する取り組み <ul style="list-style-type: none"> 1) 生活支援（メディカルフィットネス・体幹トレーニングの参加推進、メンタルヘルス制度の周知。 2) WLB 新聞の発行（2回発行） ②WLB 基盤制度に関する取り組み <ul style="list-style-type: none"> 1) 時間外勤務に関するアンケート実施。2) 公休、有給休暇に関するアンケート結果を受け改善案を検討してもらうよう働きかける。 ③個人 WLB 評価に関する取り組み <ul style="list-style-type: none"> 1) 経営計画の周知→院長・事務長各部署ラウンド 2) 賃金テーブルの見直し 3) キャリア支援、人事制度の見直し ④制度認知に関する取り組み <ul style="list-style-type: none"> 1) 労使関係への認知不足→職員会の働きについての説明会開催。 ・ 委員会毎月1回定例化した。 ・ 10月・12月アドバイス事業へ参加ー委員3名参加。 ・ 1月フォローアップワークショップへ参加、1年間の取り組み発表。 ・ 毎月1回滋賀県看護協会へ取り組み状況報告。 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ 看護師対象インデックス調査の継続（日本看護協会主催）。 ・ WLB の理解を深めてもらう取り組みとして、院内掲示（WLB 新聞発行）、研修会の開催。 ・ 病院執行部との情報共有の場を継続して作る。 ・ 2年目の課題と1年目の継続課題を委員会の中で役割分担しながら取組んで行くことで職員皆が専門性を発揮し、人生の目標が達成出来るよう「人生に優しい職場づくり」を目指し活動していく。 		

2014 年度報告（平成 26 年度） IT 情報管理委員会			
人員構成			
委員長	島川 義昭	副委員長	
委員構成	システム室（1名） 医師（1名） 看護部（1名） 企画渉外課（1名） 管理課（1名） 放射線科（1名） 薬局（1名） 医事課（2名） 栄養科（1名） リハビリテーション科（1名） 診療情報管理室（1名） 診療支援室（1名） 外部（1名）		
活動内容 （成果）	<ul style="list-style-type: none"> ・ システム障害時対応基準表の見直しを実施。 ・ 毎月のシステム室対応状況報告。 ・ システムトラブルに対する報告（原因、対策、再発防止策）。 ・ 電子カルテ導入後の評価についてアンケート調査を実施。 ・ 		
課 題	<ul style="list-style-type: none"> ・ コアリーダーの育成。 ・ 電子カルテシステムの次期更新に向けての課題を明確にし、次期更新の方針、重点項目、スケジュールを明確化する。 		



公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院 年報

平成26年度

発行 平成27年11月
発行者 公益財団法人近江兄弟社 ヴォーリス記念病院
管理者 三ッ浪 健一
院長 周防 正史

〒523-8523 滋賀県近江八幡市北之庄町 492

TEL (0748) 32-5211(代)

FAX (0748) 32-2152

URL <http://www.vories.or.jp>